

淀川水系・北川水系  
湖西圏域河川整備計画

計画概要説明資料

平成 28 年 3 月

滋 賀 県

## 目 次

1. 圏域・河川の概要 .....	1	4. 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項.....	88
1.1 圏域の概要 .....	1	4.1 平常時における関係機関の連携.....	88
1.2 河川の現状と課題 .....	13	4.2 洪水時の連携強化 .....	88
1.2.1 治水に関する現状と課題 .....	13	4.3 水防・避難体制の強化 .....	89
1.2.2 利水に関する現状と課題 .....	27	4.4 水害に強いまちづくり .....	89
1.2.3 河川環境に関する現状と課題 .....	32	4.5 地域防災力の向上 .....	91
1.2.4 琵琶湖・湖辺に関する現状と課題.....	52	4.6 超過洪水時の減災に効果のある河川管理施設の整備・保全 .....	92
2. 河川整備計画の目標に関する事項 .....	61	5. 付則資料（湖西圏域位置図） .....	93
2.1 計画対象期間、計画の対象河川 .....	61		
2.2 計画の目標 .....	62		
2.2.1 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項.....	62		
2.2.2 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する事項.....	65		
2.2.3 河川環境の整備と保全に関する事項 .....	65		
2.2.4 琵琶湖の整備と保全に関する事項 .....	66		
2.3 整備実施区間・調査検討区間・整備時期検討区間.....	67		
3. 河川整備の実施に関する事項 .....	69		
3.1 河川工事の目的、種類および施工場所 .....	69		
3.1.1 安曇川 .....	70		
3.1.2 鴨川 .....	72		
3.1.3 石田川 .....	74		
3.1.4 百瀬川 .....	75		
3.1.5 琵琶湖（湖辺の保全・再生） .....	76		
3.2 河川維持の目的、種類および施工の場所 .....	83		
3.2.1 河川維持の目的 .....	83		
3.2.2 河川の維持の種類および施工場所 .....	83		
3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項 .....	85		
3.3.1 河川への流出量の抑制 .....	85		
3.3.2 総合的な土砂管理に向けた取り組み .....	85		
3.3.3 川に関わり、川に親しむ地域社会の形成 .....	86		
3.3.4 水量・水質等の把握 .....	87		

# 1. 圏域・河川の概要

## 1.1 圏域の概要

湖西圏域は、滋賀県の琵琶湖北西部に位置し、高島市（旧マキノ町、旧今津町、旧朽木村、旧安曇川町、旧高島町、旧新旭町）と大津市の一部（安曇川の流域および旧志賀町の鴨川および鶴川の流域）を含む、2市で構成され、淀川水系および北川水系に属する全ての一級河川（琵琶湖＋淀川水系 54 河川＋北川水系 3 河川）を対象とします。圏域の面積は約 749km<sup>2</sup>となります。

圏域内の河川は、背後に比良山地や野坂山地等の急峻な山地が位置することから、流路延長が短く勾配が急であることが特徴です。そのため、山地からの土砂流出が活発で、安曇川、鴨川、百瀬川では、天井川となっている区間があります。また、安曇川、鴨川、石田川の河口部では上流からの土砂流出による三角州が形成されています。

圏域内の河川沿いには集落や田畑が広がり、また下流では、琵琶湖岸と平行して JR 湖西線・国道 161 号といった幹線が横断しています。

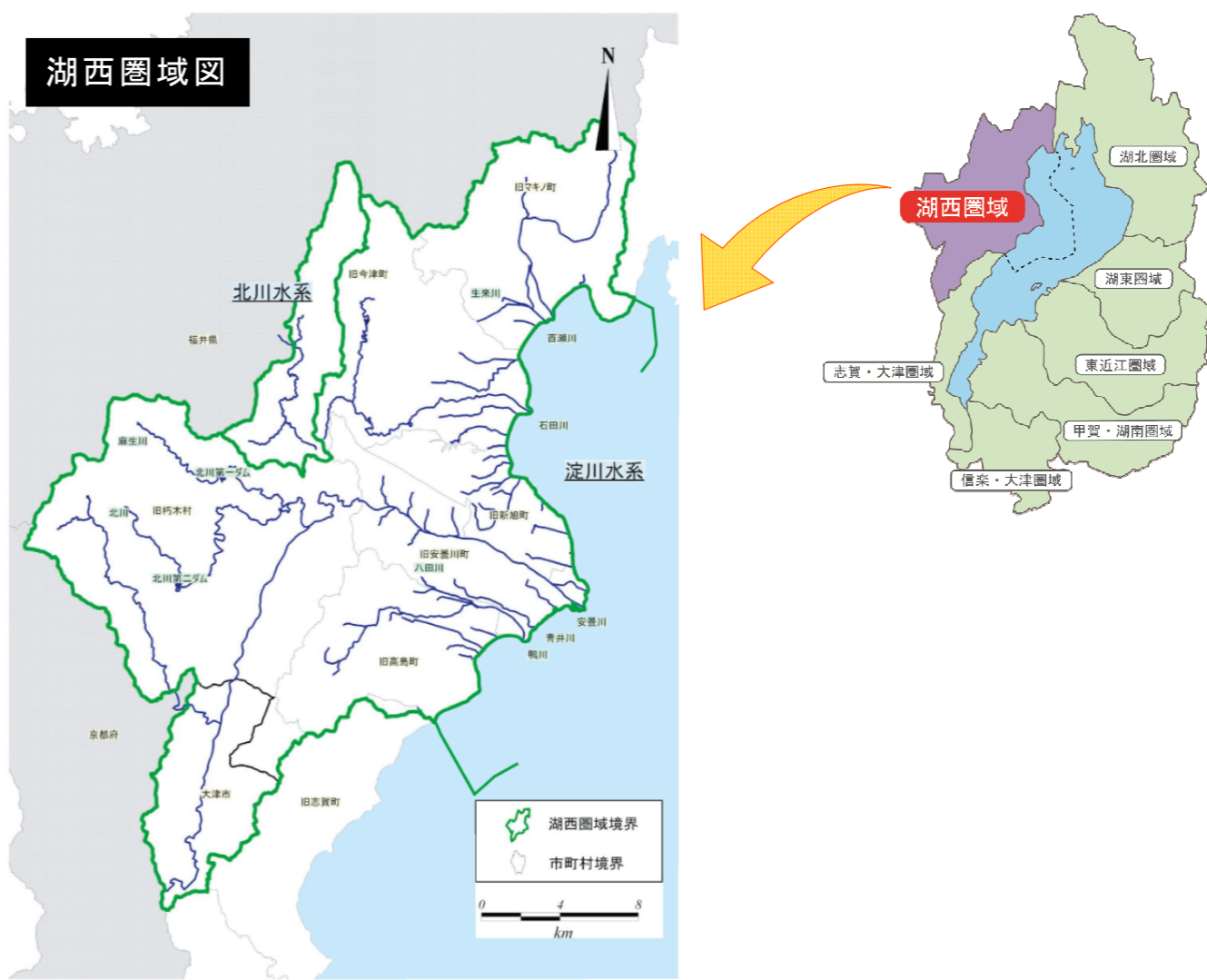
## 河川整備計画を策定する河川と取りまとめる圏域



圏域名	認可状況	対象市町(琵琶湖湖面面積)	琵琶湖面積	流域面積	圏域面積
湖西	策定中	高島市(181.64)	181.64	約547	約749

琵琶湖湖面(面積)の圏域毎への分割は、下記内容で整理・琵琶湖湖面の行政界は「琵琶湖市町境界設定検討会議(平成18年5月29日設置)で定められた行政界より分割する。各圏域の対象範囲は、左記表の関係市範囲とする。

## 湖西圏域図



湖西圏域内の河川一覧

【淀川水系（54河川）】

河川番号	河川名	指定年月日	管内	区 間		延長 (単位:m)	備 考
				上 流 端	下流端		
409	鵜 川	S40.3.24	大津 高島	左岸:高島郡高島町大字鵜川字高尾1092番地先 右岸:滋賀郡志賀町大字北小松字笹ヶ谷1888番地先	琵琶湖への流入点	1,200	
410	瀬 戸 川	S41.3.28	高島	高島郡高島町大字勝野字郭内1718番地先	琵琶湖への流入点	800	同音異字川
411	小 田 川	S40.3.24 H6.7.25	高島	左岸:高島郡高島町大字音羽字山の神778番地先 右岸:同町同大字石穴839番の1地先	和田打川への合流点	1,110	
412	和 田 打 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡高島町大字高島字城垣内588番の1地先 右岸:同町同大字同字585番地先	琵琶湖への流入点	6,000	
413	鯉 川	S40.3.24 S62.5.21	高島	左岸:高島郡高島町大字永田字沢尻664番の2地先 右岸:同町同大字字正小647番の2地先	琵琶湖への流入点	1,430	
414	鵜 川	S40.3.24	高島	高島郡高島町大字黒谷字円山1015番地先	琵琶湖への流入点	13,500	
415	八 田 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡高島町大字武曾横山字八田谷1472番地先 右岸:同町同大字同字1451番地先	鵜川への合流点	3,400	
416	中 の 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡高島町大字武曾横山2950番地先 右岸:同町同大字209番の1地先	八田川への合流点	2,200	同名 1 川
417	八 田 川 北 流	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字田中清水4303番地先 右岸:同町同大字字菊間4358番の4地先	八田川への合流点	800	
418	大 谷 川	S41.3.28	高島	高島郡高島町大字高島字城垣内767番地先	鵜川への合流点	1,000	同名 5 川
419	滝 谷 川	S41.3.28	高島	高島郡高島町大字高島字滝谷1844番地先	鵜川への合流点	1,500	
420	須 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡高島町大字畑185番地先 右岸:同町同大字381番地先	鵜川への合流点	1,500	同名 1 川 同音異字川
421	青 井 川	S40.3.24 S41.3.28	高島	左岸:高島郡安曇川町大字田中松田2187番地先 右岸:同町同大字字三十六2188番の1地先	琵琶湖への流入点	5,370	
421-1	金 丸 川	S47.4.26	高島	左岸:高島郡安曇川町大字川島字上中町1252番地先 右岸:同町同大字字西町972番地先	琵琶湖への流入点	2,550	
422	安 曇 川	S40.3.24 S44.3.20	大津 高島	大津市葛川坂下町字蛇谷390番地先	琵琶湖への流入点	57,940	
423	安 曇 川 北 流	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字北船木字輪の内2658番の4地先 右岸:同町同大字字金輪993番地先	琵琶湖への流入点	1,700	
424	入 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字下古賀字下小川原750番地先 右岸:同町同大字字約谷2429番地先	安曇川への合流点	1,500	
425	溝 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字下古賀字溝谷1608番地先 右岸:同町同大字上古賀字島上674番地先	安曇川への合流点	900	
426	大 築 波 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字中野字横町182番の1地先 右岸:同町同大字字築波708番地先	安曇川への合流点	1,200	
427	茶 屋 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字上古賀字上畑の上1054番地先 右岸:同町同大字同字1055番地先	安曇川への合流点	1,100	
428	清 水 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡安曇川町大字上古賀字上川原1815番の7地先 右岸:同町同大字字北野3104番地先	安曇川への合流点	1,200	
429	深 谷 川	S41.3.28	高島	左岸:高島郡安曇川町大字長尾字東677番地先 右岸:同町同大字字深谷1107番地先	安曇川への合流点	1,000	
430	北 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡朽木村大字中牧字中原谷348番地先 右岸:同町同大字同字349番地先	安曇川への合流点	20,700	同名 4 川
431	麻 生 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡朽木村大字麻生字足谷1885番地先 右岸:同町同大字同字1882番地先	北川への合流点	11,500	
432	大 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡朽木村大字麻生字2021番地先 右岸:同町同大字2039番地先	麻生川への合流点	700	同名 5 川
433	針 畑 川	S40.3.24 S44.3.20	大津 高島	左岸:高島郡朽木村大字小人谷字大蔵谷108番地先 右岸:同町同大字字苜谷179番地先	安曇川への合流点	17,800	
435	熊 の 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡朽木村大字生杉132番地先 右岸:同町同大字134番地先	針畑川への合流点	2,000	

【北川水系（3河川）】

河川番号	河川名	指定年月日	管内	区 間		延長 (単位:m)	備 考
				上 流 端	下流端		
1	北 川 (天 増 川)	S46.3.20	高島	左岸:高島郡今津町大字天増川字宮畑528番地先 右岸:同町同大字同字529番地先		1,900	同名 4 川 北川水系
13	寒 風 川	S46.3.20	高島	左岸:高島郡今津町大字榎川字大谷830番地先 右岸:同町同大字同字884番地先	北川への合流点	8,000	北川水系
14	棟 川	S46.3.20	高島	左岸:高島郡今津町大字榎川字辻道22番地先 右岸:同町同大字同字21番地先	寒風川への合流点	2,200	北川水系

河川番号	河川名	指定年月日	管内	区 間		延長 (単位:m)	備 考
				上 流 端	下流端		
436-2	神 奈 川	S47.4.26	高島	左岸:高島郡新旭町大字新庄字道田108番の3地先 右岸:同町同大字字身供115番の2地先	琵琶湖への流入点	2,380	
436-5	入 道 沼	S57.4.6	高島			183	
436-3	南 川	S47.4.26	高島	左岸:高島郡新旭町大字黒田字九重2327番地先 右岸:同町同大字同字2339番地先	琵琶湖への流入点	1,900	同名 2 川 同表記 1 川
436-4	針 江 大 川	S55.4.5	高島	左岸:高島郡新旭町大字針江字久久保6番の13地先 右岸:同町同大字深溝字一ノ坪1325番地先	琵琶湖への流入点	300	
437	田 井 川	S40.3.24	大津 高島	左岸:高島郡新旭町大字安井川字御屋敷地先 右岸:同町同大字字家南181番地先	琵琶湖への流入点	3,500	
438	中 の 川	S41.3.28	高島	高島郡新旭町大字豊庭字天山722番地先	田井川への合流点	1,500	同名 1 川
439	北 谷 川	S40.3.24	高島	高島郡新旭町大字豊野字北谷653番地先	田井川への合流点	1,400	
440	西 の 谷 川	S40.3.24	高島	高島郡新旭町大字豊野字西の谷643番地先	田井川への合流点	1,900	
441	林 照 寺 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡新旭町大字豊庭字前田2705番地先 右岸:同町同大字同字2602番地先	琵琶湖への流入点	1,600	
442	松 田 川	S40.3.24	高島	高島郡新旭町大字豊野字北谷3076番の13地先	林照寺川への合流点	2,000	
443	今 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡新旭町大字豊庭字北谷3076番の2地先 右岸:同町同大字同字3076番の1地先	琵琶湖への流入点	2,500	
444	波 布 谷 川	S40.3.24 S41.3.28	高島	左岸:高島郡新旭町大字豊庭字波布谷3353番地先 右岸:同町同大字同字3354番地先	琵琶湖への流入点	1,300	
445	庄 界 川	S41.3.28	高島	左岸:高島郡今津町大字今津字赤谷741番地先 右岸:同町同大字同字771番地先	琵琶湖への流入点	1,000	
446	天 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字大拱字七曲465番の1地先 右岸:同町同大字字小黒田466番地先	琵琶湖への流入点	3,700	同名 1 川
447	今 津 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字上弘部字堰場外625番地先 右岸:同町同大字字上野767番地先	琵琶湖への流入点	3,800	
448	石 田 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字角川字榎輪499番地先 右岸:同町同大字字ウツ谷505番地先	琵琶湖への流入点	17,000	
449	途 中 谷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字途中谷字直谷232番地先 右岸:同町同大字字上244番地先	石田川への合流点	3,200	
450	境 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字透波字南出724番地先 右岸:同町同大字同字723番地先	琵琶湖への流入点	3,300	同音異字川
451	上 郷 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡今津町大字日置前字中出3270番地先 右岸:同町同大字同字3418番地先	境川への合流点	2,000	
451-1	新 保 川	S47.4.26	高島	左岸:高島郡マキノ町大字新保字の町747番地先 右岸:同町同大字同字744番の1地先	琵琶湖への流入点	1,250	
452	百 瀬 川	S40.3.24	高島	左岸:高島郡マキノ町大字新保字清水谷1337番地先 右岸:同町同大字大沼字蛇毛593番地先	琵琶湖への流入点	5,200	
453	百瀬川放水路	S40.3.24	高島	百瀬川からの分派点		100	主美川への合流点
454	生 来 川	S40.3.24 S53.4.5 H19.4.19	高島	高島市マキノ町森西字未定444番地先の上流端を示す標柱		1,750	百瀬川への合流点
455	前 川	S40.3.24 H19.4.19	高島	高島市マキノ町寺久保字高サ257番地先	百瀬川への合流点	2,700	同名 3 川
456	知 内 川	S40.3.24	高島	高島市マキノ町大字野口字大谷525番地先	琵琶湖への流入点	19,000	
457	八 王 子 川	S40.3.24	高島	高島市マキノ町大字白谷字奥田610番地先	地内川への合流点	1,800	
457-1	中 ノ 川	H44.1.0	高島	左岸:高島郡マキノ町大字海津字音掛1988番地先 右岸:同町同大字同字241番地先	琵琶湖への流入点	740	

河川整備計画（本文）

（地形・地質）

滋賀県の地形は琵琶湖を中心として周囲を北に野坂山地、東に伊吹山地、鈴鹿山脈が、西に比良山地、南に甲賀山地が取り囲み、全体として盆地地形を形成しています。琵琶湖の東方、南東側は、県内で最も丘陵・扇状地三角州等の低平地が広く分布しています。一方、琵琶湖の北方・西方は、一般的に低平地の発達が乏しく、急峻な山地が琵琶湖に迫っています。

圏域の西部には、丹波帯中古生層の砂質粘板岩等から成る野坂山地、比良山地および丹波山地が連なり、中央部には、古琵琶湖層群や高位段丘層等から成る饗庭野・泰山寺野の台地があります。東部には、安曇川、鴨川、石田川、百瀬川、知内川等の河川が沖積低地や三角州を形成しています。また琵琶湖岸では、砂州が発達しています。

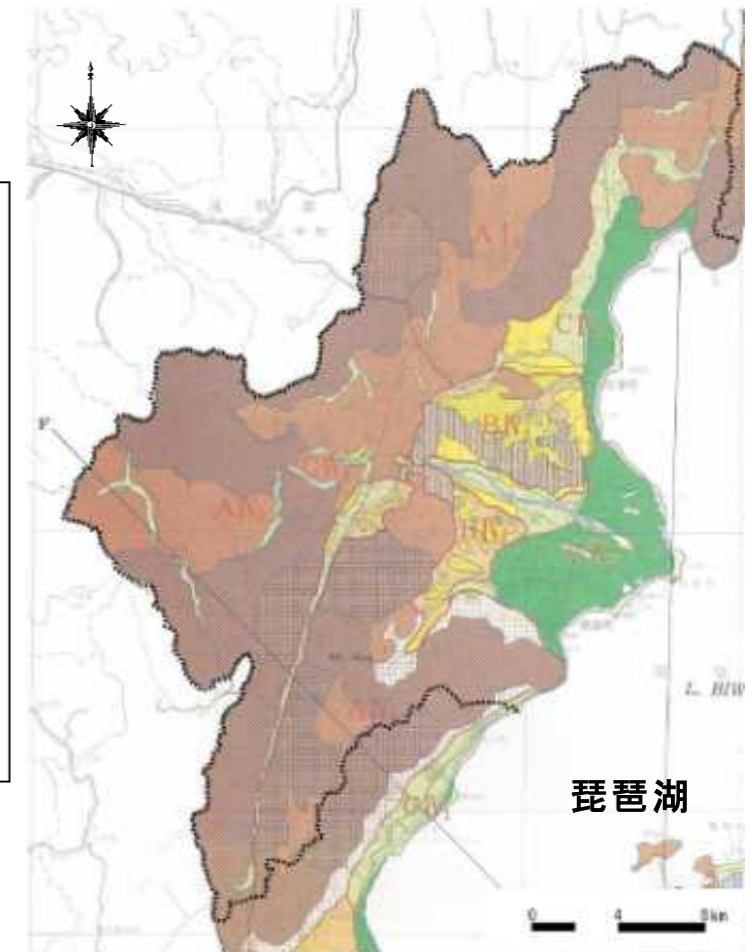
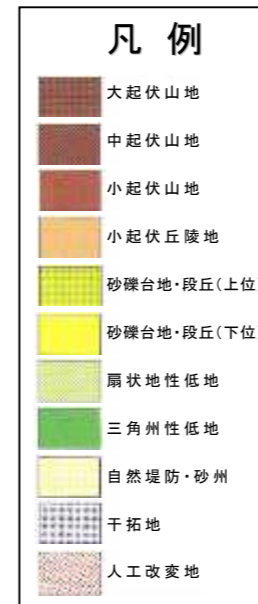
野坂山地では北部に花崗岩が、南部に古生層のチャートや粘板岩が分布し、丹波山地では主に古生代から中生代にかけての海底に堆積した堆積岩類（丹波層群）が分布しています。また比良山地の東側は花崗岩で形成されており、琵琶湖に面する急斜面では、風化岩屑が崩れ落ちる斜面崩壊が各所で発生しています。また、圏域内の丘陵部や低地部は、礫や砂といった堆積物から構成されています。

比良山地と丹波山地を分ける花折断層帯は、顕著な断層谷を形成しており、谷底部には連続的に河岸段丘が発達しています。葛川坂下町と伊香立途中町の境にある花折峠の名は、葛川の明王院への参詣者がこの峠で仏に供える花・榊を手折ったことに由来すると言われていています。また、その東側には琵琶湖西岸断層帯が琵琶湖の西岸に沿って延びており、その上には河岸段丘が分布しています。その北側の野坂山地には、山地の隆起と河川の侵食による河川争奪（河川が流域を越えて隣の河川の水を奪う現象）の地形も見られます。

安曇川上流部の葛川谷では、1662年の地震を起因とする「町居崩れ」と呼ばれる大規模な土砂崩れの発生により、榎村（現、大津市葛川梅ノ木町）と町居村（現、大津市葛川町居町）はその崩壊土砂の下に埋没し、多数の死者が発生したとの記録が残っています。

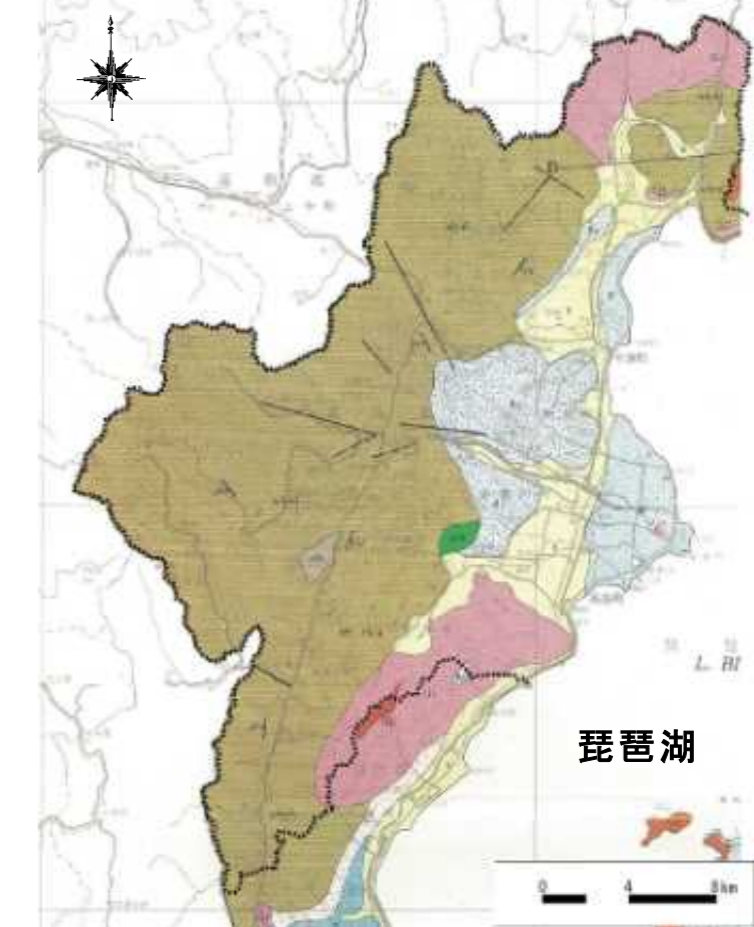
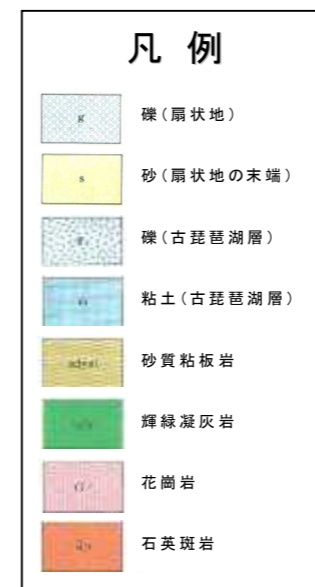
出典・根拠

地形図



出典：土地分類図・滋賀県-地形分類図(昭和50年国土庁)

地質図



出典：土地分類図・滋賀県-表層地質図(昭和50年国土庁)



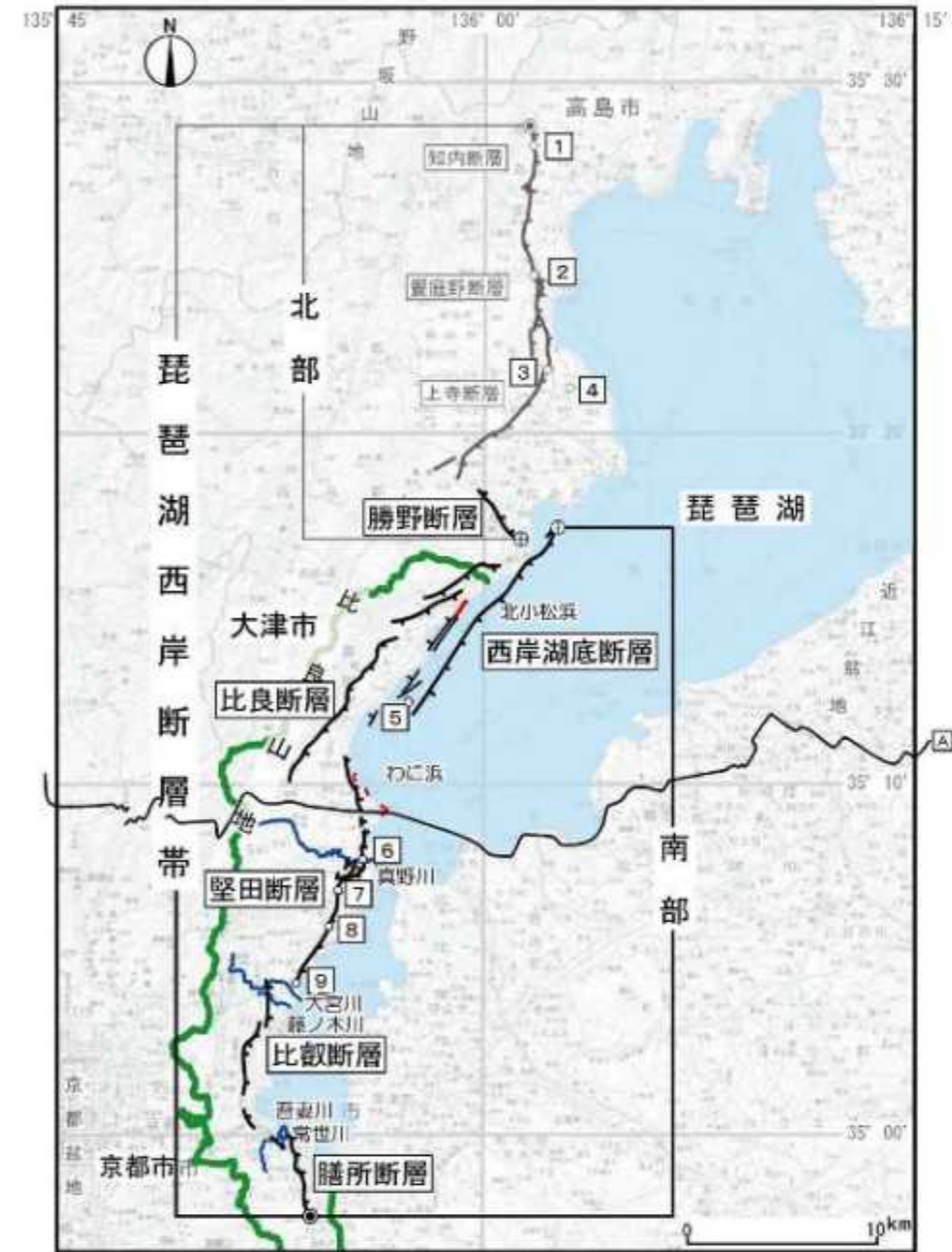
断層図(1/2)



【花折断層帯】

出典：滋賀県ホームページ 防災管理局 地震対策情報

断層図(2/2)



琵琶湖西岸断層帯の位置と主な調査地点

1：石底地点 2：弘川地点 3：鷺底地点 4：針江地点 5：比良沖地点

6：真野地点 7：本堅田地点 8：衣川地点 9：比叡辻地点

A：反射法弾性波探査測線（文献6（文部科学省研究開発局ほか、2007）

●：断層帯の北端と南端 ⊕：北部の南端・南部の北端

断層の位置は文献5, 7, 11（中田・今泉編, 2002；宮内ほか, 2005；堤ほか, 2005）に基づく。

基図は国土地理院発行数値地図 200000「岐阜」「名古屋」「宮津」「京都及大阪」を使用。

【琵琶湖湖西断層帯】

出典：滋賀県ホームページ 防災管理局 地震対策情報

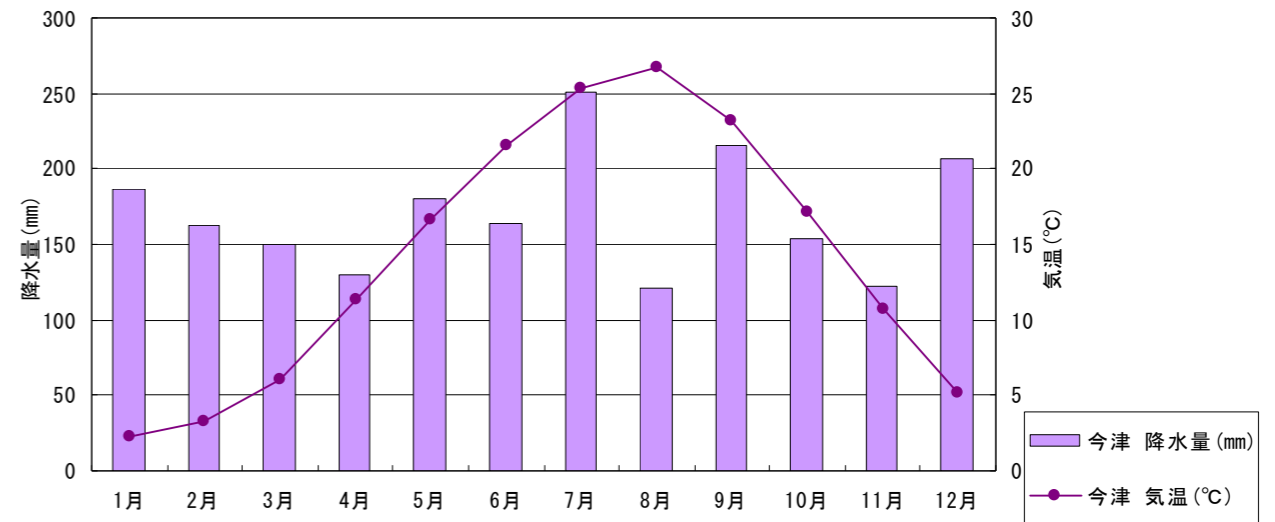
（気候）

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、日本海型気候区（北陸地方）、瀬戸内海型気候区、東日本型気候区（東海地方）に接した位置にあり、また、周囲を高い山々で囲まれています。このため、滋賀県の気候は、温暖な東日本・瀬戸内型と冬季に雪による降水量が多い日本海・中部山岳型の気候を相備えながら、琵琶湖の気候調節作用にも大きな影響を受けるため、県全体を一気候で特色付けられません。

圏域の気候は、日本海型の気候を呈しており、県内でも降雪の多い地域です。また、野坂山地の東南山麓一帯では、晩秋から初冬にかけて、この地方独特の「高島しぐれ」と呼ばれるしぐれが降ります。「高島しぐれ」は降雨期間が長く、降ったり止んだりの状態が3～4日間続くのが特徴です。

圏域の年間平均降水量（平成16年～平成25年：今津観測所）は2,040mm程度であり、県内のその他地域（大津：1,570mm程度、彦根：1,600mm程度）と比較して多くなっています。これは冬期の降雪量が多いことによるものです。また、平均気温（平成16年～平成25年：今津観測所）は14.1℃となっています。

月別平均気温と雨量（H16～25）



月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間	年平均	
今津	降水量 (mm)	186.5	162.4	149.8	129.7	179.8	164.3	250.6	121.6	216.0	153.8	122.3	207.0	2,044	170.3
	気温 (°C)	2.3	3.3	6.1	11.4	16.7	21.6	25.3	26.7	23.2	17.2	10.7	5.2	—	14.1



（自然・景観）

圏域北部の乗鞍岳、三国山から武奈ヶ嶽に連なる山々や、比良連山等の山地ならびに琵琶湖岸一帯は、昭和 25 年に我が国で初めて指定された「琵琶湖国定公園」に属しており、豊かな自然と生物の宝庫となっています。安曇川中流域は、朽木溪谷と称せられる周辺の緑と一体となった景観美を成し、「朽木・葛川県立自然公園」に指定されています。この自然公園は、丹波山地へ続く標高 300～1,000m の平坦な山々と、その山間をぬって流れる安曇川を中心として、総面積約 143.4km<sup>2</sup>にも及んでいます。

また、平成 19 年に高島市が策定した「高島市景観計画」で、高島市全域を景観計画区域とするとともに、琵琶湖とその周辺、および安曇川中流については、積極的に伝統的な景観を保全する地域として、景観形成推進区域に指定されています。

圏域内の自然公園位置図



河川整備計画（本文）

（産業）

圏域内の産業別就業人口（構成比）は、平成 22 年 10 月で、第 1 次産業就業者は約 1.6 千人（7%）、第 2 次産業就業者は約 7.8 千人（31%）、第 3 次産業就業者は約 15.5 千人（62%）となっています。

一方製造業は、旧マキノ町に工業団地が立地するなど、平成 23 年で約 190 の事業所（従業員 4 人以上の事業所）が分布していますが、その工業出荷額は約 1,030 億円で滋賀県全体の約 1～2% です。

（人口）

圏域内の人口は、約 53 千人（平成 22 年 10 月）で、県人口の 3.7%にあたります。人口の増減は、昭和 55 年の国勢調査の人口を 1.0 とすると平成 22 年には 0.97 倍（3%減）に減少しています。

（歴史）

圏域内の歴史は、古くから農耕や薪炭（薪や木炭のこと）製造を糧としながら、京都や奈良の都と日本海を結ぶ交通の要衝として栄えました。

大津から琵琶湖沿いに北陸へ向かう「北国海道（西近江路）」、福井県の小浜から京都に向かう「鯖街道」、福井県の熊川から今津に向かう「九里半街道」を中心に街が発展しました。中でも「鯖街道」の 1 ルートである「若狭街道」は、北陸海産物を京の都へ運ぶ最短交通路として多くの往来がありました。さらに、これらの街道を介して、日本海と深く結びついた湖上交通の拠点（海津港、今津港）としても発展してきました。

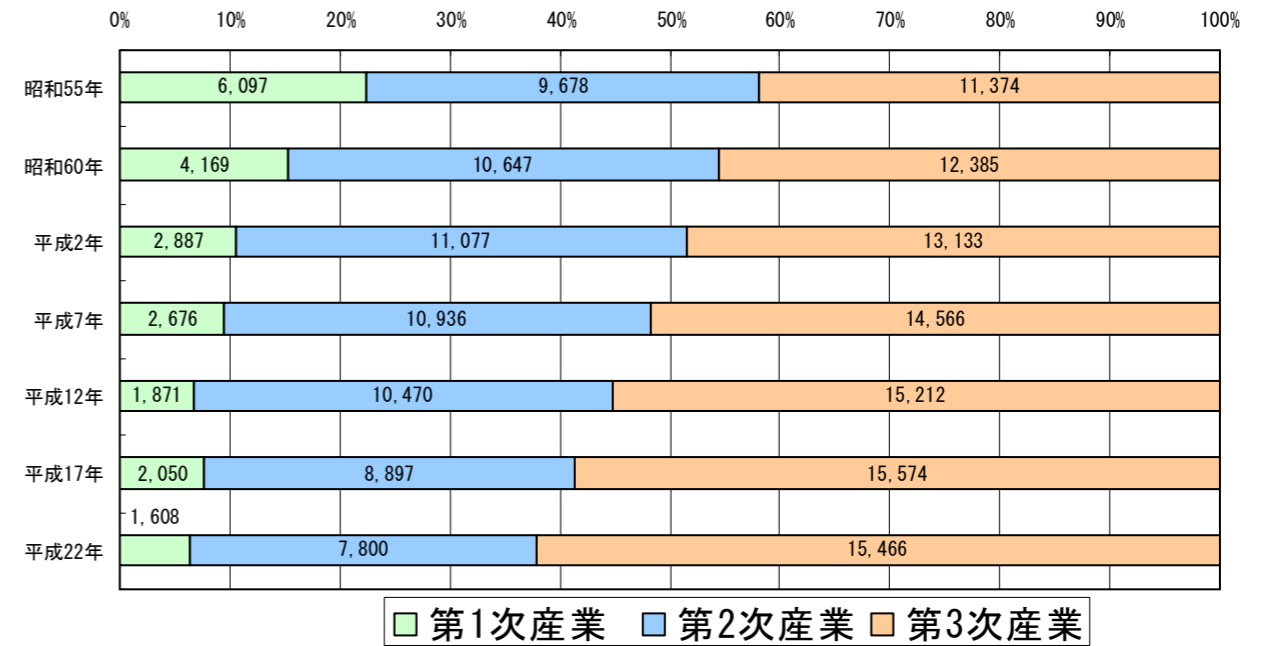
また、安曇川や鴨川は、奈良時代から昭和の初期に至るまで、上流の山地から切り出した木材をイカダで搬出する水運に利用されていました。

安曇川では、江戸時代に洪水防止のために堤防に竹を植えてきました。この竹は、地域の防災に重要な役割を果たすとともに、扇骨の材料として地域産業を支えてきました。また石田川の河畔林の一部を構成するケヤキは、昔から沿川住民によって育てられたもので、流域の神社や寺の築造・改築を行う際には、寄進されるなどしてきました。

このように圏域内各地域では、河川の水や草木を利用して、地域独自の生活文化を築いてきました。

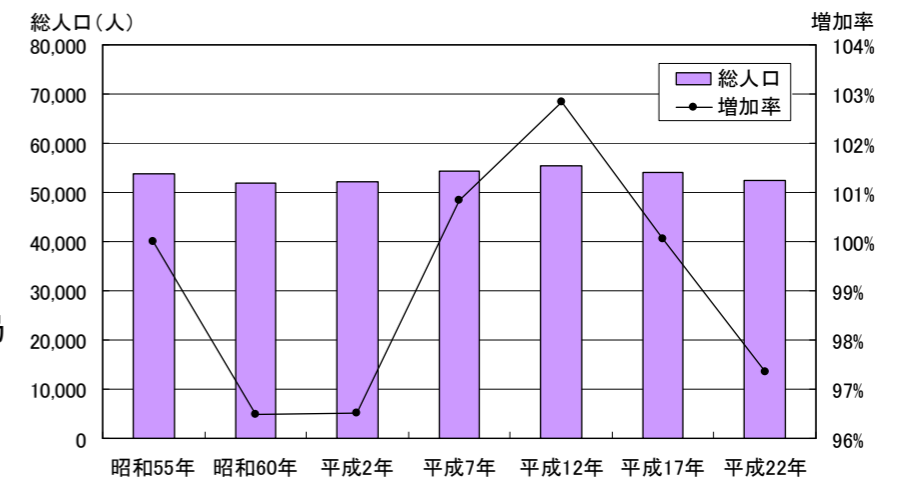
出典・根拠

圏域の産業



出典：総務省統計局「経済センサス－基礎調査」

圏域の人口と人口増加率



出典：総務省統計局「国勢調査報告」

河川整備計画（本文）

出典・根拠

（文化財）

滋賀県は、美しい自然と、それぞれの時代が代表する豊かな歴史文化資産に恵まれ、国宝や文化財の数は、全国でも有数を誇っています。

圏域内には、数多くの貴重な文化財が存在し、平成27年1月現在で、国が指定等を行った文化財が35件、県が指定等を行った文化財が20件となっています。

その内訳は、白鬚神社本殿（旧高島町）等の建造物17件、木造阿弥陀如来坐像（旧朽木村）や木造釈迦如来坐像（旧新旭町）等の彫刻10件、藤樹書院跡（旧安曇川町）等の史跡・名勝10件、高島市海津・西浜・知内の水辺景観等の重要文化的景観3件、絹本着色千手観音二十八部衆像（旧高島町）等の絵画3件、紙本墨書法華経（旧マキノ町）等の書籍6件及び川上祭りのサンヤレ（旧今津町）等の民俗文化財6件となっています。

また、平成26年に発掘調査を実施した「上御殿遺跡（旧安曇川町）」からは、平安時代の土器や国内初となる双環柄頭短剣の鋳型等が出土しました。

文化財



【宗正寺：十一面観音座像】  
（重要文化財）



【称念寺：本尊薬師如来立像】  
（重要文化財）

種別	国指定		県指定		国認定		国登録		県選択		国選定		合計
	重文	5	県有	2	美	2		10		5	3		
有形文化財(建造物)	重文	5	県有	2									7
有形文化財(美術工芸品)	重文	11	県有	6	美	2							19
登録有形文化財								10					10
民俗文化財(有形)				1									1
民俗文化財(無形)										5			5
史跡名勝天然記念物		4		6									10
重要文化的景観											3		3
合計		20		15		2		10		5	3		55



天神畑・上御殿遺跡からの出土品

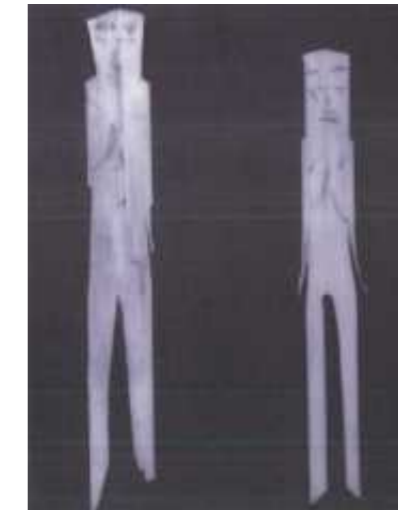


鋳型（上）



鋳型（下）

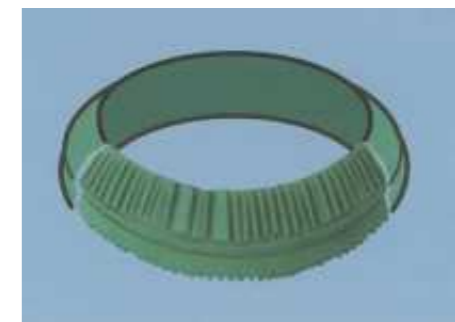
そうかんつかがしらたんけん  
【双環柄頭短剣の鋳型】



ひとかたしろ  
【人形代（右は赤外線写真）】



【轡】



いしくろ  
【石鉤（下は復元イメージ）】



河川整備計画（本文）

（土地利用）

圏域の土地利用は、平成 24 年で、山林等が 86%、農地（田・畑）が 11%、宅地が 3%となっており、山林等の占める割合が大きくなっています。

圏域内の全河川とも上・中流域は山地で構成されており、下流域および沿川の低平地を中心に、農地や集落が形成されています。特に下流域の広大な低平地には、ほ場整備事業により整理された水田が広がり、穀倉地帯となっています。

（交通）

圏域では、琵琶湖沿岸部に沿って JR 湖西線が通り、京阪神と北陸とを結んでいます。また、JR 湖西線に平行して国道 161 号が通っているほか、山間部には、旧今津町保坂から南下し旧朽木村から大津を経て京都市左京区に至る国道 367 号（若狭街道）と、旧今津町から福井県三方上中郡若狭町に至る国道 303 号（九里半街道）が通っており、この地域の主要な道路として利用されています。

（農業）

圏域内の農業は、主産品の米や各種転作作物、畜産、野菜、果樹等のほか、地域の特産であるソバ、カブ（万木かぶ他）等が生産されています。

（漁業）

安曇川、鴨川および石田川の中流から上流域では、アユ、アマゴ、イワナおよびニジマスの漁場が設定されています。安曇川、石田川および知内川の河口近くでは、遡上するアユ等の漁獲を目的にやな漁業が操業されています。さらに琵琶湖では、小型定置網漁業が営まれています。

安曇川、石田川および知内川のアユの産卵に適した区域は、水産資源保護法に基づく保護水面に指定されています。また、これら 3 河川はビワマスの重要な産卵場であるとともに、鴨川、百瀬川も含めて、ビワマス増殖事業における稚魚の放流場所となっています。

（林業）

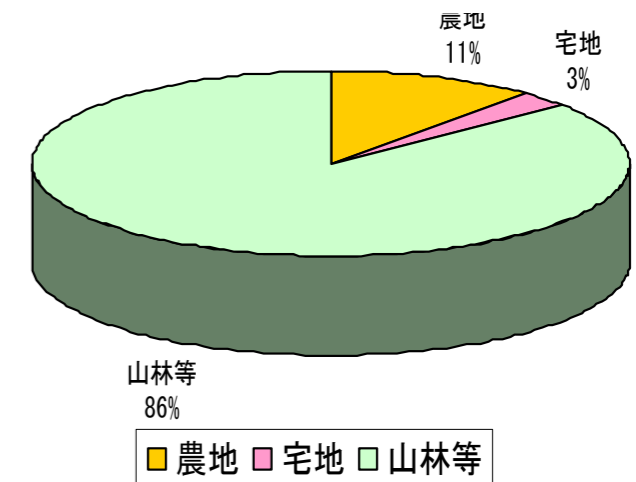
圏域の木材生産は、長年の林業の低迷から生産量の少ない状況となっておりましたが、数年前からは国内合板メーカーやチップ業者による国産材需要の高まりにより、圏域の木材生産量は増加しています。一方で、地元不在の土地所有者の増加や林地境界の不明確化、間伐等が適切に行われないうこと、ニホンジカの食害による森林植生への影響や土壌流出の懸念等の課題が生じています。このような状況の中、森林組合等が林業の担い手となって、積極的に森林整備と木材の供給に努めています。

また、「高島の木の家づくりネットワーク」等、地産地消が進められるなど、地域の林業を活性化させる動きもみられます。

特用林産物においては、旧マキノ町で原木シイタケ、クリ、旧今津町の菌床シイタケ、旧朽木村の原木シイタケ、山菜、木炭等を生産していますが、原木シイタケの生産は伸び悩んでいます。

出典・根拠

圏域の土地利用の割合(H24)



	総数	農地	宅地	山林等
高島市	51,135	5,861	1,372	43,902

出典：平成24年度滋賀県統計書

特産品（農業）



【万木カブ】

## （その他の産業）

圏域内では、高島クレープ（綿ちぢみ）や高島扇骨、近江扇子といった地場産業が発達しており、国産の扇骨（竹製）のほとんどがここで作られています。また、琵琶湖や山間部の豊かな自然環境や美しい景観を活かし、グリーンパーク思い出の森や、しんあさひ風車村等の観光施設が整備されています。

## 特産品（その他産業）



【高島扇骨】



【近江扇子】



1.2 河川の現状と課題

1.2.1 治水に関する現状と課題

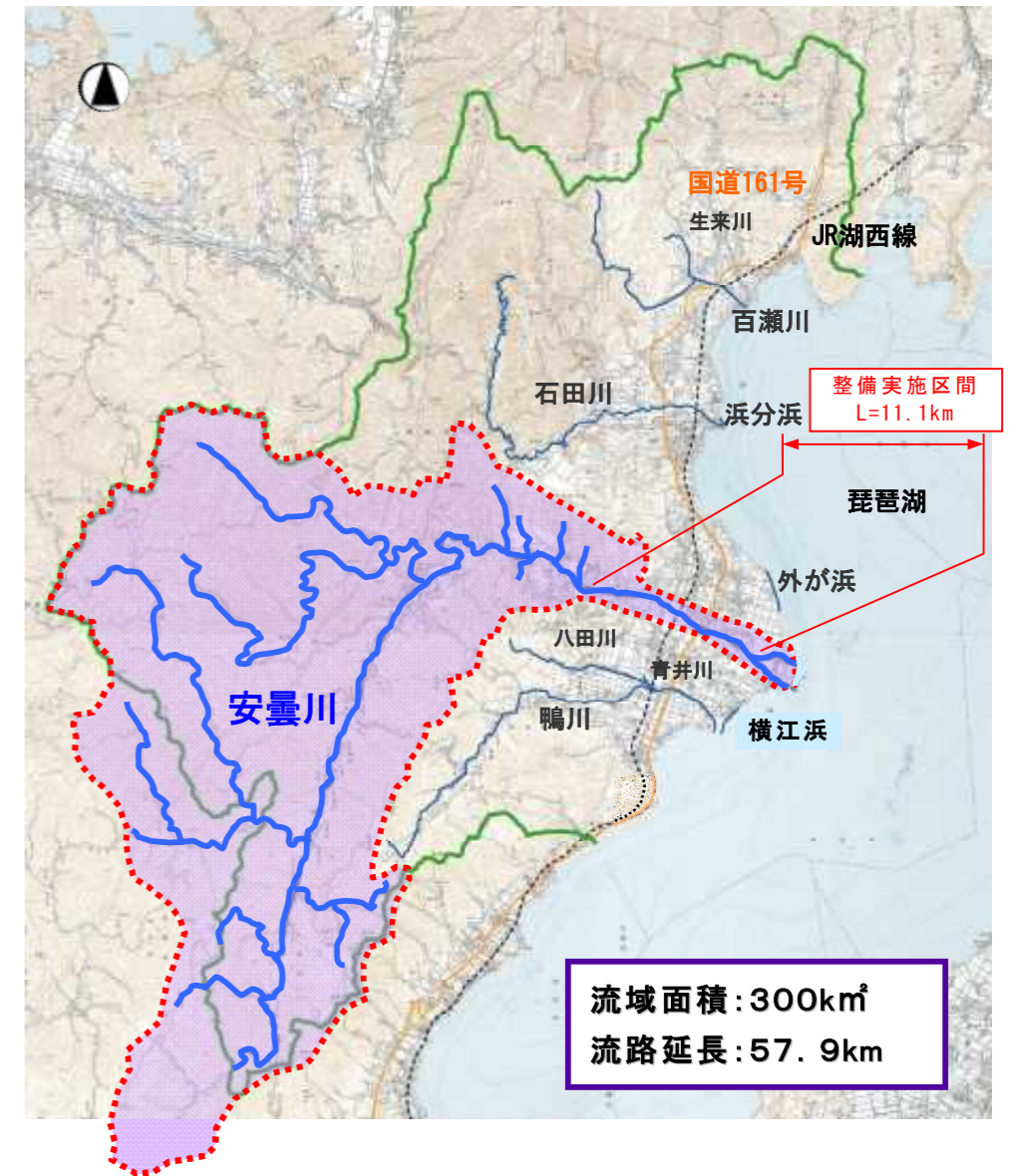
（河川の現状）

圏域内には琵琶湖を含め一級河川が 58 河川存在します。

この内、琵琶湖に直接流入する河川は 26 河川であり、その他河川は、北川水系の河川を除き、これらの河川の支川です。

安曇川は京都府県境の百井峠付近に源を発し、針畑川、麻生川、北川等の支川を合わせ、大津市、旧朽木村、旧安曇川町、旧新旭町を流下し琵琶湖に注ぐ、流路延長約 57.9km、流域面積約 300.0km<sup>2</sup>の一級河川です。野洲川、姉川に次いで県内第3位の流域面積を持つ河川で、湖西圏域では最大の河川です。河道については、下流の改修済み区間の河積は一定確保していますが、上流の未改修区間は有堤河川で河積の不足する箇所があります。

流域概要  
（安曇川）



安曇川の氾濫原の状況



安曇川の現状



【河口部】



河川整備計画（本文）

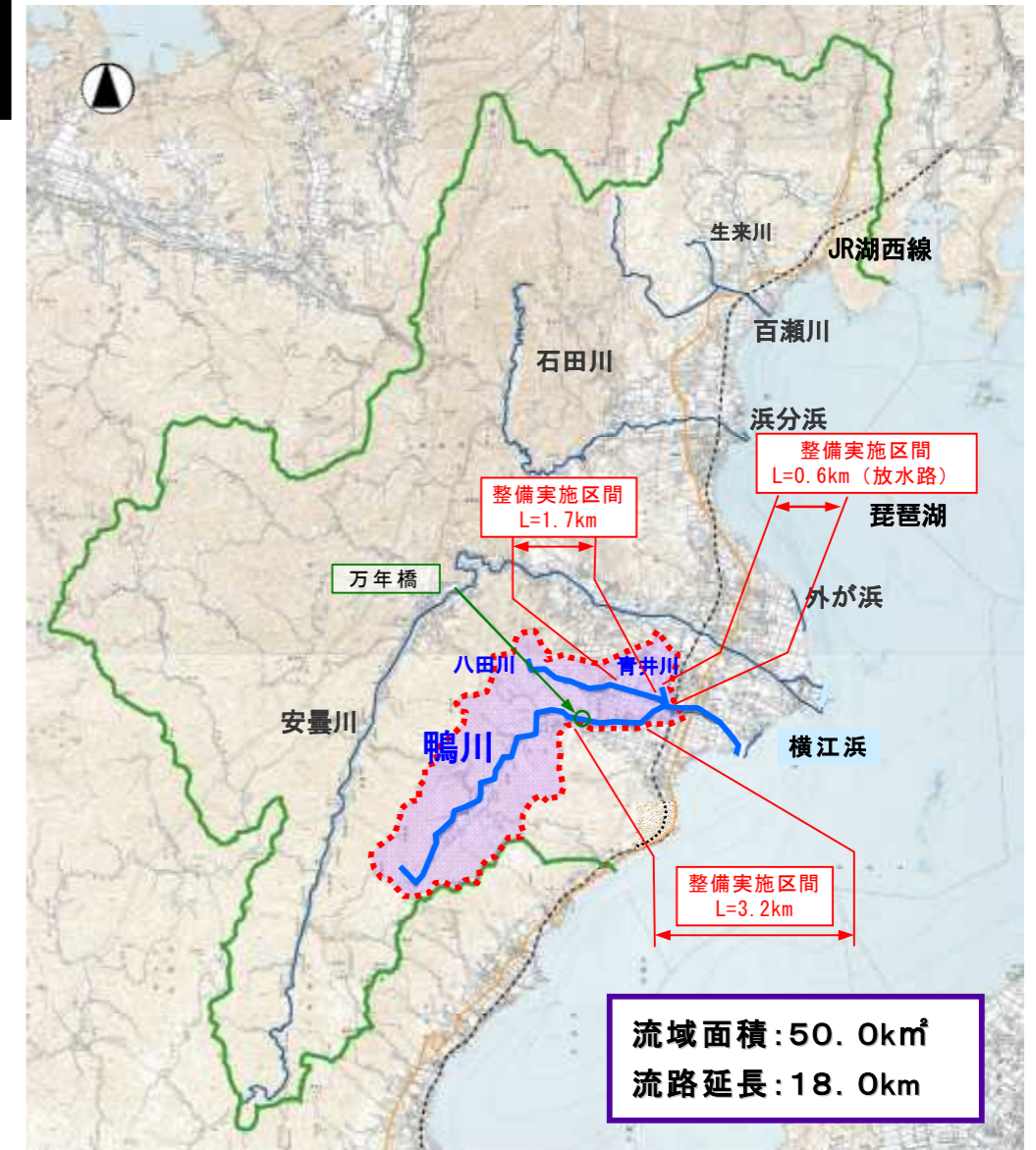
鴨川は比良山地の主峰武奈ヶ岳付近に源を発し、八田川、中の川等の支川を合わせ、JR 湖西線、国道 161 号等湖西地区の幹線を横断して流下し琵琶湖に注ぐ、流路延長約 18.0 km、流域面積約 50.0km<sup>2</sup> の一級河川です。現在、中道橋まで改修が完了していますが、これより上流部の未改修区間は、河積が不足する天井川となっています。

八田川は比良山地の北端に位置する阿弥陀山に源を発し、北鴨集落付近で鴨川に合流しています。八田川は、典型的な天井川であり、堤内地盤高と河床の高さの差が約 3m に達しています。

青井川は低平地の田園地域を流下している用水河川であり、河床勾配が緩く、全区間にわたり流下断面が不足しています。

出典・根拠

流域概要  
(鴨川)



鴨川の氾濫原の状況



鴨川の現状



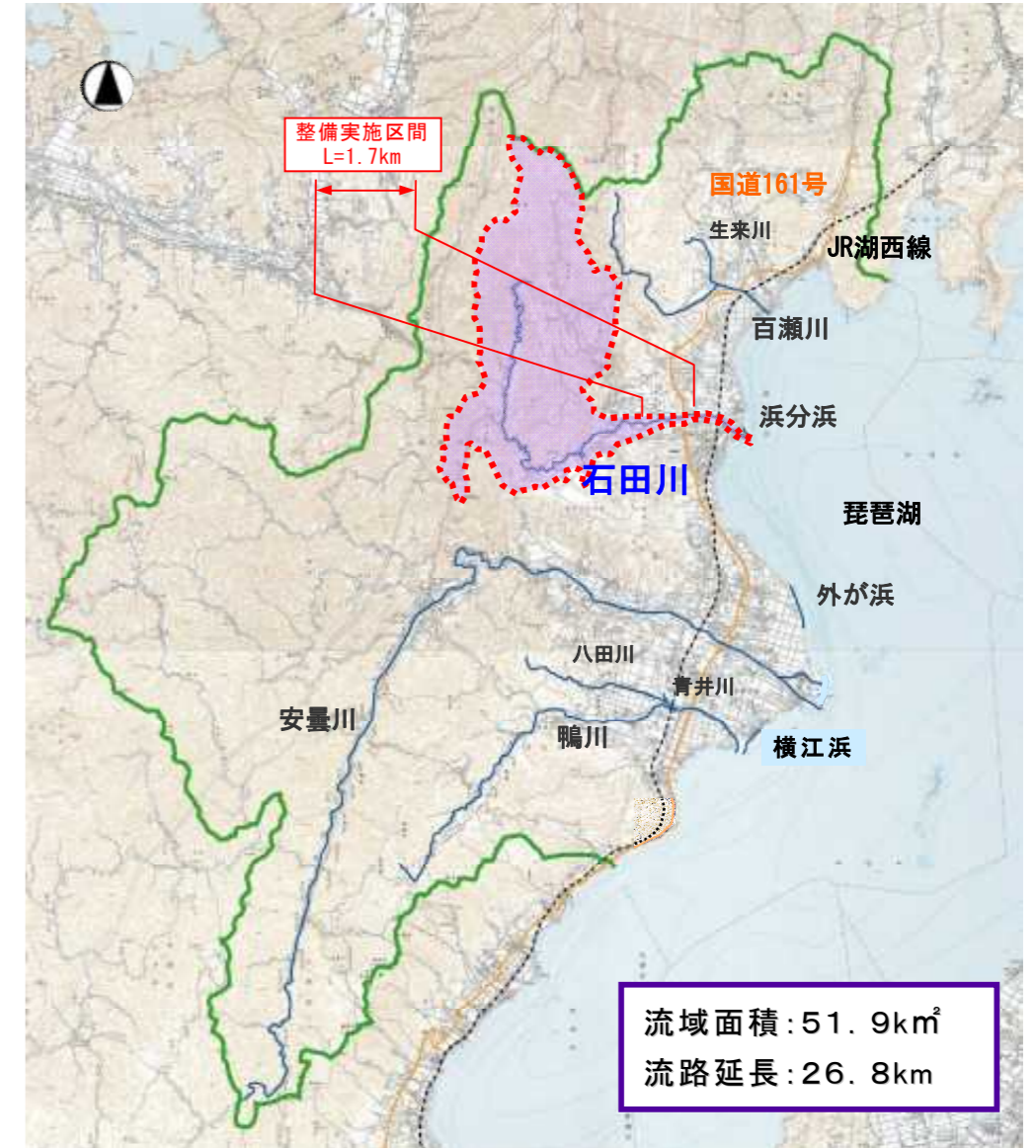


### 河川整備計画（本文）

石田川は野坂山地に源を發し、石田川ダムを経て、支川途中谷川<sup>とちゅうたにがわ</sup>を合わせ、旧今津町を流下し琵琶湖に注ぐ、流路延長約 26.8km、流域面積約 51.9km<sup>2</sup>の一級河川です。上流には洪水調節を目的に持つ石田川ダムがあります。しかし、国道 161 号橋梁より上流では流下断面が不足しているため、岸脇橋付近ではたびたび浸水被害が生じています。

### 出典・根拠

#### 流域概要 (石田川)



#### 石田川の氾濫原の状況



#### 石田川の現状



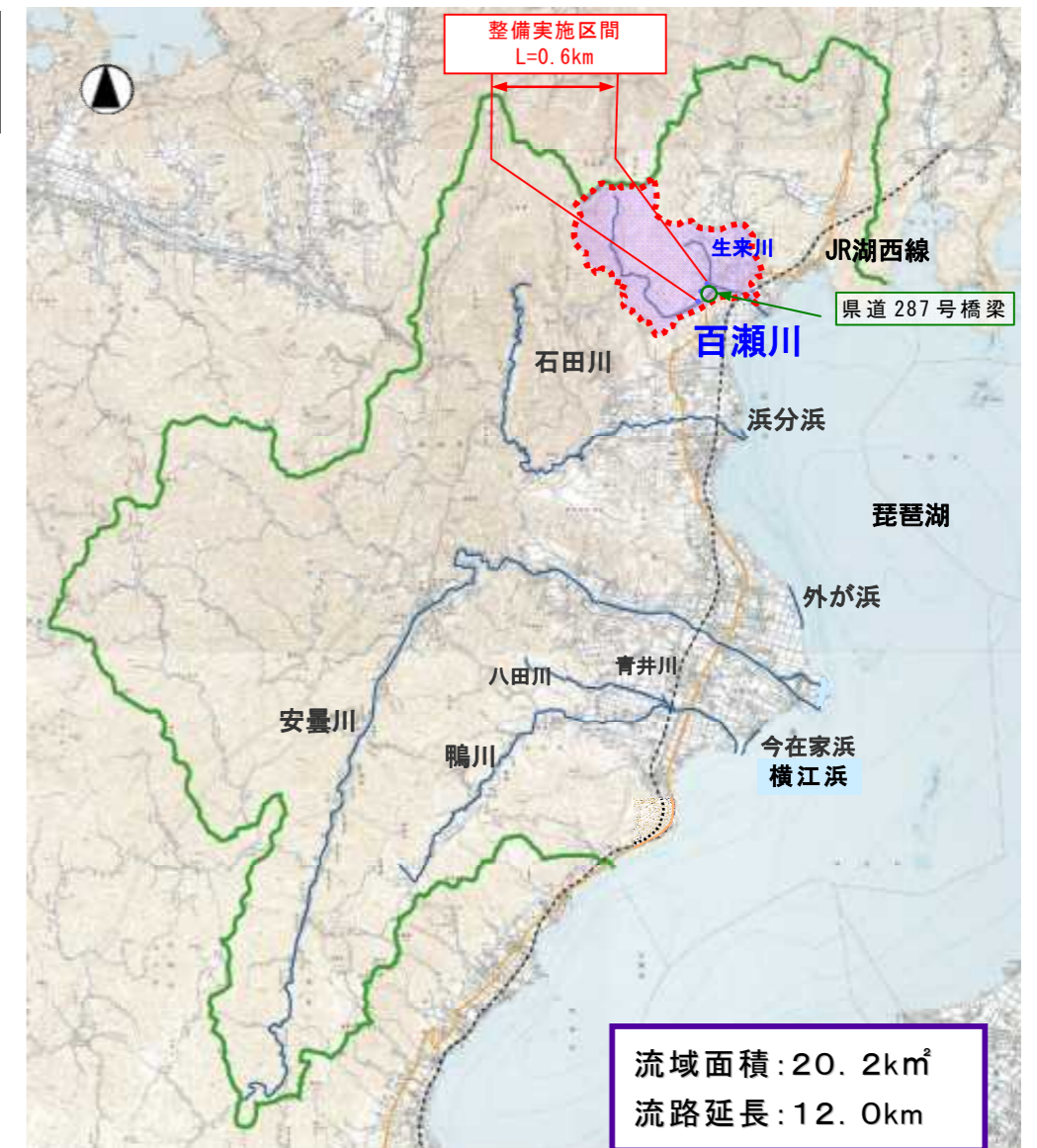


河川整備計画（本文）

百瀬川は野坂山地に源を發し、生来川と前川の支川を合わせ、旧マキノ町を流下し琵琶湖に注ぐ、流路延長約 12.0km、流域面積約 20.2km<sup>2</sup>の一級河川です。上流域の崩壊地からの土砂流出が活発であり天井川となっています。扇状地の上流部においては、多数の堰堤工群が並び、その左岸側には約 42.9ha に及ぶ広大な沈砂池が広がっています。百瀬川は、典型的な天井川であり、堤内地盤高と河床の高さの差が約 7m にも達し、ひとたび洪水が発生すると甚大な被害が生じる恐れがあります。

出典・根拠

流域概要  
(百瀬川)



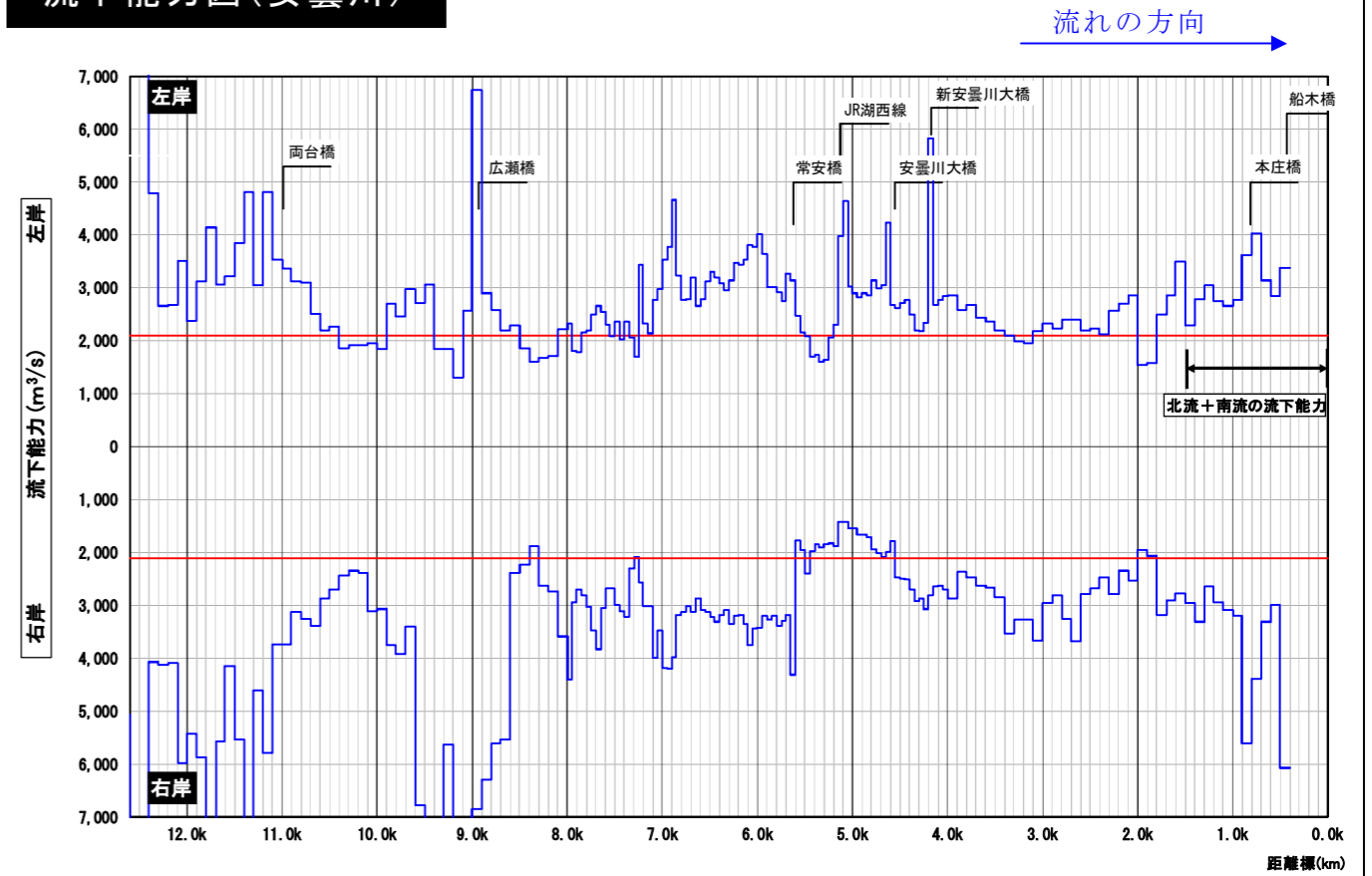
百瀬川の氾濫原の状況



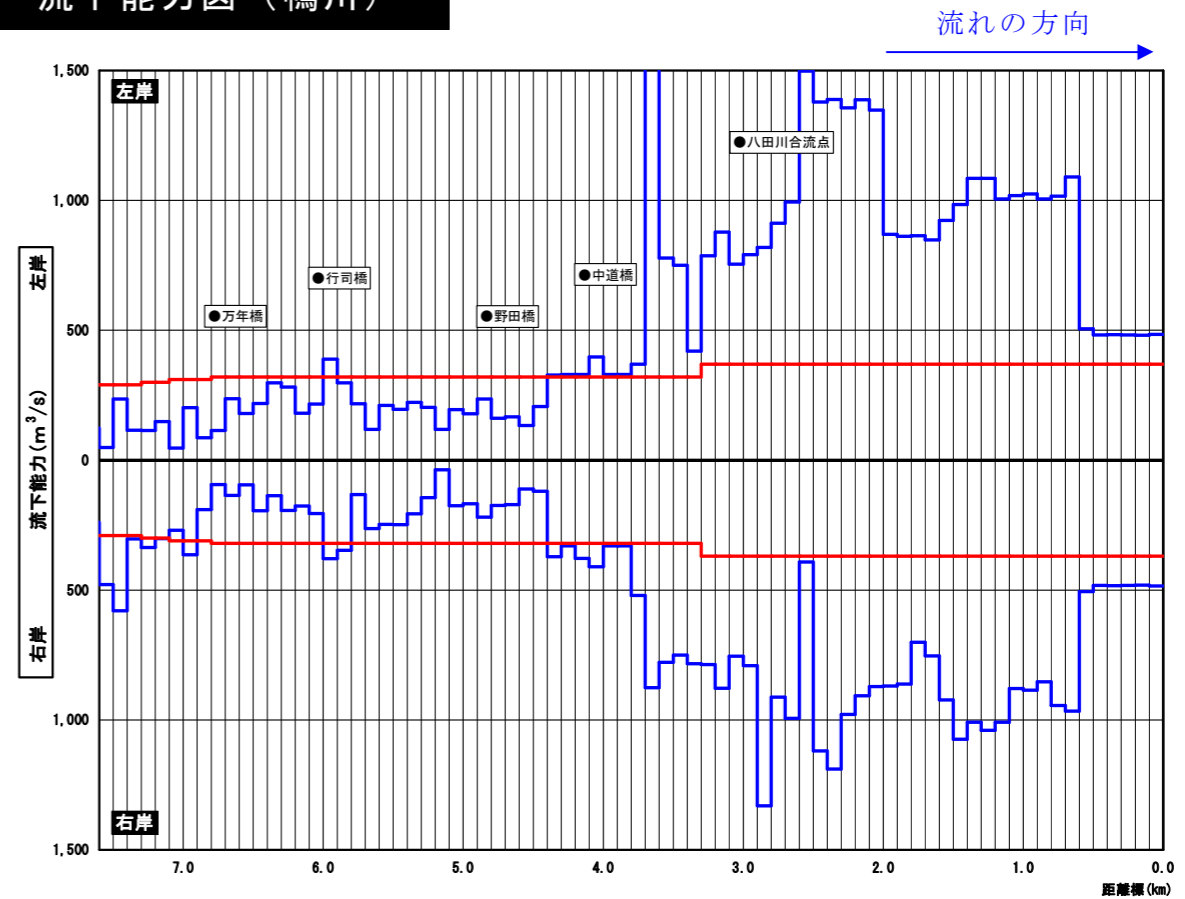
百瀬川の現状



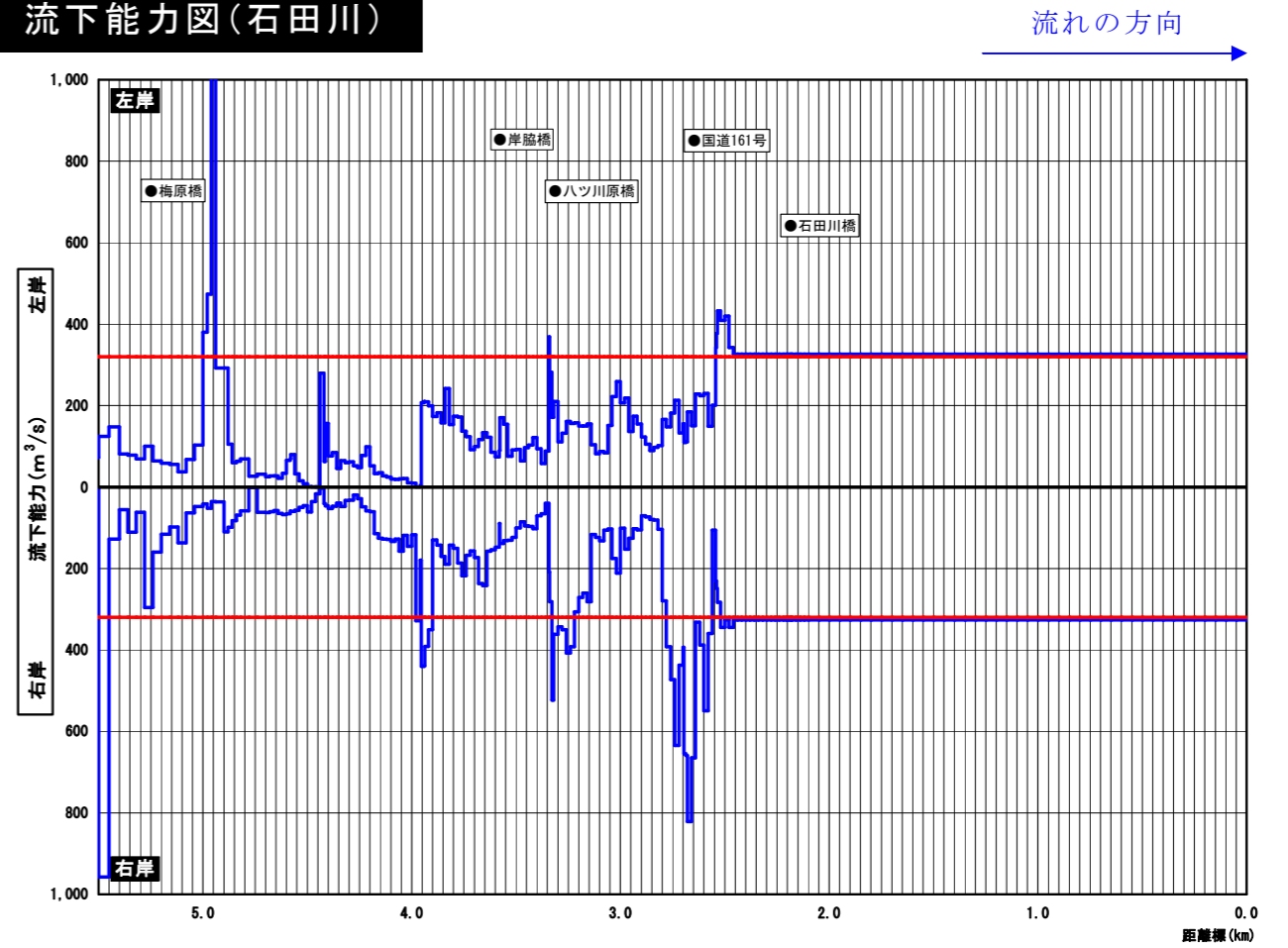
流下能力図(安曇川)



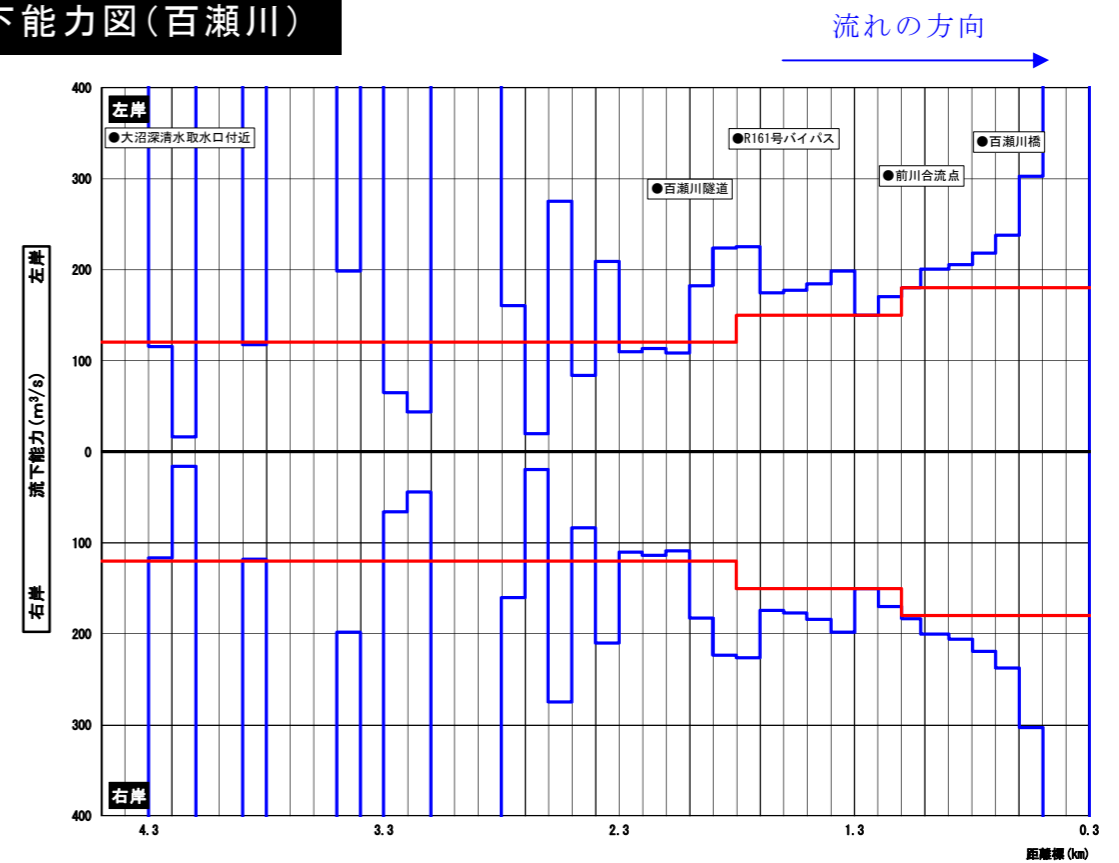
流下能力図(鴨川)



流下能力図(石田川)



流下能力図(百瀬川)





河川整備計画（本文）

出典・根拠

（過去の主要な洪水概要）

圏域においては、これまで多くの洪水に見舞われてきました。中でも昭和25年9月（ジェーン台風）、昭和28年9月（台風13号）、昭和34年9月（伊勢湾台風）や昭和36年9月（第2室戸台風）の洪水で甚大な被害が発生したのを始め、昭和46年8月（台風23号）の洪水では堤防決壊や家屋倒壊等の被害が発生しています。

また近年でも平成7年5月（大雨、低気圧）、平成10年9月（台風7・8号）、平成25年9月（台風18号）の洪水によって、浸水等の被害が発生しています。

安曇川では、昭和28年9月の台風13号により、堤防決壊、家屋流出18戸、死者13名、行方不明者2名の被害が発生しました。平成25年9月の台風18号では、床上浸水14棟、床下浸水36棟の被害が発生するとともに、安曇川町川島地先の右岸堤防裏法が崩落しました。

鴨川では、昭和46年の秋雨前線により、床上浸水1戸、床下浸水8戸の被害が発生しました。平成25年9月の台風18号では、宮野地先の右岸堤防決壊等により、床上浸水152棟、床下浸水119棟の被害が発生しました。

石田川では、昭和34年の伊勢湾台風で、堤防破堤8箇所被害が発生しました。平成25年9月の台風18号では、床下浸水22棟の被害が発生するとともに、大床橋が落橋しました。

百瀬川では、昭和36年の第2室戸台風で、死者1名、負傷者46名、家屋全壊69戸の被害が発生しました。

圏域の主要水害一覧

発生年月日	対象河川	発生原因	浸水被害		災害概要	出典	
			床下	床上			
昭和25年	7月28日～8月4日	百瀬川	集中豪雨	—	—	百瀬川120m決壊(沢地先)、40m決壊(知内地先)、埋没5、浸水455、田埋没62町歩、畑埋没8町歩	—
	9月3日	石田川	ジェーン台風	—	—	天増川地区：崖崩れ 崩壊 角川：崖崩れ 崩壊 石田川：決壊 1箇所	—
百瀬川		41		11	県内被害状況(死者7、負傷者76、行方不明1、家屋全壊297戸、半壊854戸、非住家4,945棟)	—	
昭和28年	9月25日	安曇川	台風13号	—	—	湖西病院南方の堤防決壊、森まで水込み、田に土砂が入り収穫皆無の所あり、低い所で約1m浸水、新旭町災害救助法が適用	新旭町史
						青柳村、本庄村(安曇川町)は泥水の中に孤立、特に二ツ矢集落朽木村では道路寸断(ヘリコプターおよび徒歩で衣食の給与)	滋賀県史
						家屋流出18戸、死者13名	安曇川町50年のあゆみ資料集
昭和34年	9月26日	安曇川	伊勢湾台風	—	—	舟で田刈りをする所もあった。井ノ口、あいば井付近決壊	—
		石田川				石田川破堤：8箇所 山神橋落橋：被害甚大	—
		百瀬川				県内では死者16名を出す大きな被害をもたらしたが幸いにもコースが東寄りをとったため郡内では河川の氾濫に伴う被害等が主であった。	—
昭和36年	9月16日	安曇川	第2室戸台風	—	—	特に風害が大きく新旭町は災害救助法の適用を受ける。	新旭町史、滋賀県史
		百瀬川				257	250
昭和46年	8月30日～9月1日	安曇川	台風23号	—	—	中村、坊地区の約3,500mの区間堤防決壊、護岸欠損、道路流失、決壊、崩土	—
	9月6日～7日	鴨川	秋雨前線	8	1	床上浸水：1棟・1世帯・3人・200(千円) 床下浸水：8棟・8世帯・33人・80(千円) 河川：152箇所・681,262(千円)高島町他 砂防：22箇所・58,201(千円)高島町他 道路：31箇所・33,496(千円)高島町他	滋賀県災害史 高島町消防団記録
平成7年	5月11日～15日	鴨川	大雨	1	0	床下浸水：1棟・1世帯・1人 河川：4箇所、港湾：1箇所	滋賀県災害史
		石田川	低気圧	—	—	浸水農地：12.77ha	—
平成10年	9月21日～23日	鴨川	台風7・8号	21	0	公共建物：3棟、文教施設：3箇所、 ブロック塀：3ha、ビニールハウス：13ha	滋賀県災害史
平成25年	9月15日～16日	安曇川	台風18号	36	14	床上浸水：14棟 床下浸水：36棟 安曇川町川島地先の右岸堤防裏法が崩落。	高島市集計
		鴨川		119	152	床上浸水：152棟 床下浸水：119棟 宮野地先の右岸堤防が決壊。災害復旧助成事業として採択される。	
		石田川		22	0	床下浸水：22棟 大床橋が落橋。	

※1 “—”は不明を示す。

**安曇川の洪水被害（昭和28年9月25日 台風13号）**

堤防決壊状況  
（旧安曇川町二ツ矢地先）



堤防決壊状況  
（旧安曇川町川島地先）



青柳区所蔵写真集より

**安曇川の洪水被害（平成25年9月15日～16日 台風18号）**

安曇川大橋流下状況  
（高島市新旭町新庄地先）



堤防崩落状況  
（高島市安曇川町川島地先）



出典：【左写真】高島市 HP「広報たかしま台風18号災害特集号（平成25年11月）」  
【右写真】滋賀県高島土木事務所提供

鴨川の洪水被害（平成11年9月15日 台風16号）

浸水被害状況  
（安曇川町三尾里地先）



鴨川の洪水被害（平成25年9月15日～16日 台風18号）

堤防決壊状況  
（高島市宮野地先）



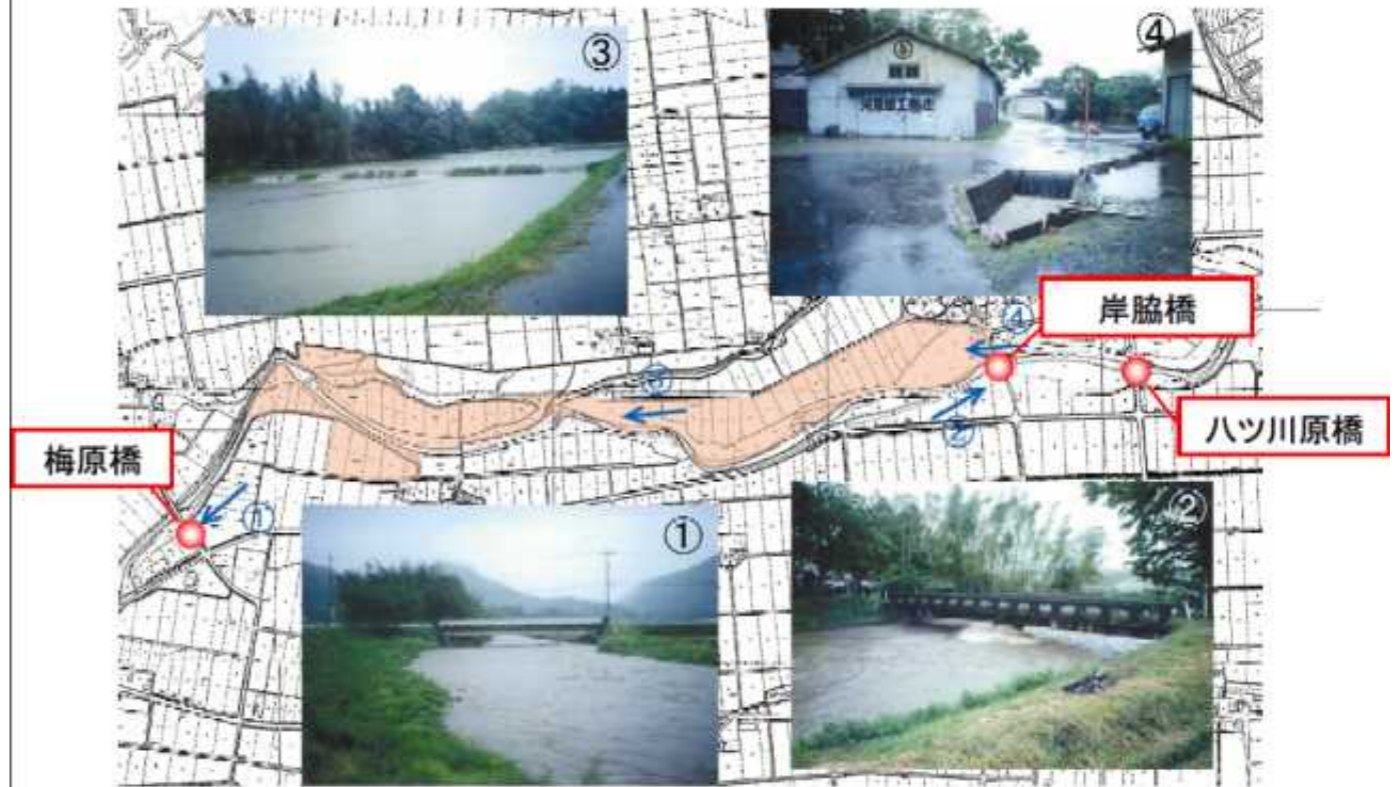
浸水被害状況  
（高島市鴨地先）



出典：滋賀県高島土木事務所提供



石田川の洪水被害（平成7年5月11日～12日）



石田川の洪水被害（平成25年9月15日～16日 台風18号）

岸脇橋流下状況  
（高島市今津町岸脇地先）



浸水被害状況  
（高島市今津町岸脇地先）



出典：滋賀県高島土木事務所提供

百瀬川の洪水被害（昭和25年8月集中豪雨）



河川整備計画（本文）

出典・根拠

（治水事業の沿革）

圏域では洪水の被害を防止するため、各河川について河川改修事業や災害復旧事業等により、河川の改修工事や護岸の復旧工事、洪水調節施設の設置等を行ってきました。特に昭和 47 年からは、琵琶湖総合開発事業により安曇川他、15 河川について河川改修を行ってきました。

安曇川においては、昭和 32 年より河口から約 4.5km 区間を中小河川改修事業により河川改修を行ってきました。安曇川の上流域では、昭和 61 年からダム建設事業を実施してきましたが、平成 22 年 9 月に国からダム検証の実施を要請され、その検証結果に基づく住民代表からなる「検討の場」、有識者による淡海の川づくり検討委員会および滋賀県公共事業評価監視委員会の意見を踏まえて、北川ダム建設事業を一旦中止し、河道改修を先行することとしました。

現在では、河口から約 1.5km 地点までの区間（河口から北流と本川・南流が分派する地点）においては、30 年に 1 回程度の降雨による洪水に対応できるようになりました。

鴨川においては、昭和 48 年から中小河川改修事業に着手し、河口から約 7.6km 区間について改修工事を行っています。現在では河口から約 4.3km 地点までの区間においては 10 年に 1 回程度の降雨による洪水に対応できるようになりました。その上流区間においては、平成 25 年台風 18 号洪水で、長時間の出水により河床洗掘、浸透破壊等が発生したこと等により堤防が決壊するなど甚大な被害を受けて、再度災害防止のため、災害復旧助成事業として採択されました。現在、この災害復旧助成事業の整備内容をもとに、上下流の治水安全度のバランスを図りながら、河川改修を進めています。

石田川においては、昭和 31 年度から洪水調節とかんがいを目的としたダム建設計画に着手し、昭和 37 年度から石田川総合開発事業としてダム建設のための調査・設計を行いました。石田川ダムは、昭和 40 年度から仮排水トンネル工事、昭和 41 年度から堤体建設工事を行い、昭和 45 年 3 月に完成し、管理運用を行っています。河川改修工事は、平成 4 年から 8 年にかけての小規模河川改修事と平成 9 年からの障害防止対策事業により進めてきています。現在までに、河口から 2.5km の区間において、戦後最大規模の降雨による洪水に対応できるようになりました。

百瀬川においては、昭和 25 年 8 月の集中豪雨による被害に対し、災害復旧助成事業として、沈砂池等を設置しました。昭和 52 年からは百瀬川と生来川を統合する中小河川改修事業を実施し、河口から 2.4km の区間においては、10 年に 1 回程度の降雨による洪水に対応できるようになりました。これによって河口から 1.5km 区間の百瀬川の天井川を解消し、平地河川化しています。また上流部においては、土石流を止めるための砂防工事を進め、平成 7 年度には高さ 20m の百瀬川砂防堰堤が完成するなど、総合的な治水および土石流対策を進めています。



河川整備計画（本文）	出典・根拠
<p><b>（治水上の課題）</b></p> <p>災害復旧事業や計画的な改修事業を進めてきたことにより、大規模な洪水被害は減少していますが、近年、全国各地で気候変動による集中豪雨が頻発していることから、河川の施設能力を上回る洪水（以下、超過洪水という）が発生する危険性が增大しています。</p> <p>また、圏域の市街化の進展や交通網の整備等により人口・資産の集中が見られるなど堤内地の土地利用の高度化が進んでいます。</p> <p>さらに、これまでの洪水対策では、河川管理者による取り組みだけでなく、住民による自主的な判断や自助・共助活動として、地域防災力の中心・中核を担う消防団や自警団・私設消防組織による活動が重要な役割を担ってきましたが、団員の高齢化やサラリーマン化による組織の弱体化が見られます。また、核家族化による水害に対する知恵の伝承の断絶等で、治水への関心が低下する状況にあります。</p> <p>このように全体として地域防災力が低下し、水害発生時の被害ポテンシャルが高まっており、今後とも生命の安全確保と財産の保護が急務となっています。</p> <p>改修が進んでいる箇所においても、護岸の老朽化や背後地の利用状況の変化により危険性を確認した箇所に対しては、個別の対応策として、堤防の質的強化や氾濫制御を図る対策も併せて進めていく必要があります。</p> <p>こうしたことから、県民の命を守り壊滅的な被害をできるだけ少なくするため、これまでの川の中の対策に加え、自助・共助・公助を組み合わせた川の外の対策を推進し、効果的に治水安全度を高める取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>安曇川は、河川沿いに新興住宅地や工場が存在することや JR 湖西線、国道 161 号といった幹線が横断するなど、その広範囲の想定氾濫区域内に人口や資産が多く、氾濫が生じた場合の被害は甚大なものが予想されます。また、上流の未改修区間は流下能力が不足する箇所があるため、河積の確保により洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>鴨川は、JR 湖西線、国道 161 号といった幹線が横断するなど、氾濫が生じた場合の被害は甚大なものが予想されます。平成 25 年 9 月の台風 18 号洪水では、中道橋より上流の天井川区間である高島市宮野地先において、右岸側が決壊し、274 棟の家屋をはじめ道路、農地等に甚大な浸水被害が発生し、さらに上流部の万年橋および迎出井堰付近からの溢水により数棟の家屋浸水等が発生しました。これらの浸水被害を受け、災害復旧助成事業が認可されました。今後は、災害復旧助成事業の整備内容（河積の確保）をもとに緊急的に河川改修を進め、洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>八田川は、河川沿いに新興住宅地が存在するうえ、上流の未改修区間は天井川となっているため、天井川の切り下げにより壊滅的被害を軽減する必要があります。</p> <p>青井川は、平地河川で勾配が緩く流下能力が不足するため、河道拡幅、堤防かさ上げ等による河積の確保が必要ですが、下流部は市街化しており河道拡幅は非常に困難な状況です。このため、現河川の他に、洪水を流す放水路を開削することで洪水被害を軽減する必要があります。</p>	

河川整備計画（本文）	出典・根拠
<p>石田川は、大型商業施設や工場が存在することやJR湖西線、国道161号といった幹線が横断するなど、その想定氾濫区域内に人口や資産が多く、氾濫が生じた場合の被害は甚大なものが予想されます。平成25年9月の台風18号洪水では、岸脇地区等が浸水被害を受けました。このため、河積の確保により洪水被害を軽減する必要があります。</p> <p>百瀬川は、病院、小学校、果樹園等が、想定氾濫区域内に存在することから、氾濫が生じた場合の被害は甚大なものが予想されます。また、洪水時の土砂流出が多く、上流域は流下能力が不足する箇所があります。このため、沈砂池を設置する等、流出土砂の抑制や河積の確保により壊滅的被害を軽減する必要があります。</p>	

1.2.2 利水に関する現状と課題

圏域における河川水の利用の主なものは生活用水や農業用水ですが、その他に、発電用水、養魚場にも利用されています。これらは地域生活や農・漁業にとって欠くことのできないものとなっています。こうした河川水の利用に加え、河川やその他の水路における環境・景観保全の面からも引き続き、適正な水管理を行っていくことが必要です。

安曇川においては、合同井堰や三ヶ井井堰等の堰により、農業用水が取水されています。上流では発電用水の取水も行われており、中村発電所・栃生発電所・荒川発電所の3地点の発電所が存在します。この他にも1件の養魚取水があります。また、下流域には広く「川端」と呼ばれる生活用水として利用される水の文化が形成され、生活維持用水を井戸から取っている地区が多く存在します。

鴨川においては、上井頭首工、中井頭首工、山ノ神頭首工等からの取水をはじめ、その支川（須川、八田川、中の川）でも農業用水、生活用水としての取水がなされています。北部に隣接する青井川にも多くの堰が存在し、下流域の約1,000haの水田へとかんがいされています。

石田川においては、待井井堰、桂井井堰等の堰により、農業用水および生活用水として取水されています。

百瀬川においては、上流谷口付近に赤坂川原谷用水の堰があり、今津町深清水およびマキノ町大沼の農業用水および防火用水として利用されています。

しかし、安曇川、鴨川、石田川、百瀬川等では、河川水が伏流する傾向にあり、渇水時には瀬切れが生じている箇所も存在します。このため流水を確保し、適正な水利用を図る必要があります。なお、天井川の切り下げや新川の掘削等地下水への影響が想定される河川については調査が必要です。

利水の現状



荒川発電所高岩頭首工(安曇川)



川端(かばた)



醤油製造



酒づくり



アユの養魚用水

利水の課題(瀬切れ)



安曇川の瀬切れ



水利権一覧(1/4)

【安曇川】

	期別		
	普通代掻期 (6/1~9/20)	代掻期 (5/11~5/31)	非灌漑期 (9/21~5/10)
北川	0.1166	0.2915	—
麻生川	0.0406	0.0855	0.00035
安曇川	13.4945	14.3965	9.6255

【石田川】

種別	堰位置		名称	権利状況	受益面積	取水量 (m³/s)
取水堰	NO.25+46.00	右岸	待井用水	許可水利	50ha	代かき 0.37 非灌漑 0.19
	NO.26+95.00	左岸	清水井用水	慣行水利	1400反(138.9ha)	不明
	NO.33+43.00	左岸	桂井用水	許可水利	12.8ha	代かき 0.073 非灌漑 0.063
	NO.38+54.00	右岸	中の井用水	慣行水利	400反(39.7ha)	不明
	NO.44+13.00	左岸	岸脇井用水	慣行水利	400反(39.7ha)	〃
	NO.48+82.00	左岸	大床井用水	慣行水利	20反(2.0ha)	〃

【百瀬川】

管理番号	施設諸元				取水量 (m³/s)				かんがい諸元				
	施設名	河川	取水口	位置	取水目的	取水開始	第1回 実地調査	第2回 実地調査	要領7により 算定された 最大取水量	かんがい面積 (ha)	かんがい期間	しろかき期間	日減水深 (mm/day)
37	まごぼ湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.01848	0.01800	0.03376	40.0	4/15~9/25	5/1~6/1	23
38	まえめぐら湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00014	0.00010	0.00025	0.3	4/10~9/25	5/1~6/3	20
39	儀左エ門湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00037	0.00035	0.00068	0.8	4/10~9/20	5/1~6/1	25
40	治郎左エ門湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00139	0.00130	0.00253	3.0	4/15~9/25	5/1~6/3	20
41	蛭口揚水機	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	昭和35年	0.00277	0.00200	0.00506	6.0	4/12~9/23	5/1~6/1	23
42	奥出湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00032	0.00030	0.00059	0.7	4/10~9/20	5/1~6/1	22
43	勘左湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00185	0.00180	0.00338	4.0	4/10~9/20	5/1~6/1	23
44	前川湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00185	0.00180	0.00338	4.0	4/10~9/20	5/1~6/1	23
45	下前川湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00028	0.00028	0.00051	0.6	4/10~9/20	5/1~6/1	23
46	清平湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00014	0.00014	0.00025	0.3	4/10~9/20	5/1~6/1	21
47	塩から湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00069	0.00060	0.00127	1.5	4/10~9/20	5/1~6/1	26
48	天明一の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00014	0.00014	0.00025	0.3	4/10~9/20	5/1~6/1	25
49	天明二の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00009	0.00009	0.00017	0.2	4/10~9/20	5/1~6/1	23
50	久七湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00139	0.00130	0.00250	3.0	4/10~9/20	5/1~6/1	20
51	下河原湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00162	0.00160	0.00295	3.5	4/10~9/20	5/1~6/1	20
52	からす二の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00028	0.00020	0.00051	0.6	4/10~9/20	5/1~6/1	24
53	からす一の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00092	0.00090	0.00169	2.0	4/10~9/20	5/1~6/1	28
54	安政一の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00014	0.00010	0.00025	0.3	4/10~9/20	5/1~6/1	23
55	安政二の湯	前川		高島郡マキノ町大字蛭口	灌漑用水	江戸	0.00014	0.00010	0.00025	0.3	4/10~9/20	5/1~6/1	24
56	吉右エ門河原湯	前川		高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	江戸	0.00162	0.00160	0.00295	3.5	4/10~9/20	5/1~6/1	25
57	車瀬湯	前川		高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	江戸	0.00069	0.00060	0.00127	1.5	4/10~9/20	5/1~6/1	20
58	村中湯	前川		高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	江戸	0.00139	0.00130	0.00253	3.0	4/10~9/20	5/1~6/1	20
59	ミソジ湯	生来川	右岸φ600 左岸φ300	高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	昭和16年	0.00693	0.00600	0.01266	15.0	4/12~9/23	5/1~6/1	23
60	六反田湯	生来川	右岸φ300 左岸φ200	高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水 防火用水	昭和16年	0.00693	0.00690	0.01266	15.0	4/10~9/20	5/1~6/1	23
61	八反田湯	生来川	右岸φ300 左岸φ300	高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	昭和16年	0.00393	0.00300	0.00717	8.5	4/10~9/20	5/1~6/1	23
62	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町大字大沼	灌漑用水 防火用水	太古	0.01525	0.01500	0.02785	33.0	4/10~9/20	5/1~6/1	23
63	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町中庄	灌漑用水 防火用水	太古	0.02310	0.02300	0.0422	50.0	4/10~9/20	5/5~6/5	25
64	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町新保	灌漑用水 防火用水	太古	0.02827	0.02800	0.05165	61.2	4/10~9/20	5/1~6/1	25
65	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町森西	灌漑用水 防火用水	太古	0.00277	0.00250	0.00506	6.0	4/10~9/20	5/1~6/1	24
66	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町大字沢	灌漑用水	太古	0.01709	0.01700	0.03123	37.0	4/10~9/20	5/1~6/1	23
67	伏流水	百瀬川	伏流水	高島郡マキノ町大字知内	灌漑用水	太古	0.00462	0.00400	0.00844	10.0	4/10~9/20	5/1~6/1	20

水利権一覧(2/4)

【鴨川(下流区間)】

河川名	位置図 No.	施設名	灌漑面積 (ha)	代掻期		普通期		日減水深 (mm/day)
				取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	
鴨川	(高)-30	中島揚水池	43.0	0.03629	5/1~6/1	0.01987	4/15~9/25	34.0
	(高)-31	副流水(鴨川漏水)	3.0	0.00253	5/1~6/1	0.00139	4/15~9/25	34.0
	(高)-32	副流水	3.0	0.00253	5/1~6/1	0.00139	4/10~9/20	32.0
合計			49.0	0.04135		0.02265		

【八田川】

河川名	位置図 No.	施設名	灌漑面積 (ha)	代掻期		普通期		日減水深 (mm/day)
				取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	
八田川	(高)-40	一の井湯用水	53.0	0.04473	5/2~6/3	0.02449	4/10~9/20	22.0
	(高)-41	北浦用水路	8.0	0.00675	5/1~6/1	0.0037	4/10~9/20	24.0
	(高)-42	河原用水	45.0	0.03798	5/1~6/1	0.02079	4/10~9/20	23.0
	(高)-43	東仁和寺口用水	1.0	0.00084	5/1~6/1	0.00046	4/10~9/20	20.0
	(高)-44	北浦新田用水	42.0	0.03545	5/1~6/1	0.0194	4/10~9/20	21.0
	(高)-45	神明用水	30.0	0.02532	5/1~6/1	0.01386	4/10~9/20	24.0
	(高)-46	鎌田用水路	35.0	0.02954	5/1~6/1	0.01617	4/10~9/20	20.0
	(高)-47	どんど	5.0	0.00422	5/1~6/1	0.00231	4/10~9/20	20.0
	(安)-1		0.5	0.00042	5/1~6/1	0.00023	4/10~9/20	28.0
	(安)-2		2.0	0.00169	5/1~6/1	0.00092	4/10~9/20	28.0
	(安)-3	八田川北流	1.5	0.00127	5/1~6/1	0.00069	4/10~9/20	28.0
	(安)-4		2.0	0.00169	5/1~6/1	0.00092	4/10~9/20	32.0
	(安)-5		1.5	0.00127	5/1~6/1	0.00069	4/10~9/20	32.0
	(安)-6		15.0	0.01266	5/1~6/1	0.000693	4/1~9/20	30.0
	(安)-7		1.0	0.00084	5/1~6/1	0.00046	4/10~9/20	30.0
合計			242.5	0.20467		0.105783		

【中の川】

河川名	位置図 No.	施設名	灌漑面積 (ha)	代掻期		普通期		日減水深 (mm/day)
				取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	
中の川	(高)-34	三島用水	6.0	0.00506	5/1~6/1	0.00277	4/10~9/20	30.0
	(高)-35	西の川水門	18.0	0.01519	5/1~6/1	0.00832	4/10~9/20	34.0
	(高)-36	八代田堰	5.0	0.00422	5/5~6/5	0.00231	4/15~9/25	35.0
	(高)-37	こす田堰	2.0	0.00169	5/5~6/5	0.00092	4/10~9/20	33.0
	(高)-38	西の川用水	0.8	0.00068	5/1~6/1	0.00037	4/10~9/20	32.0
	(高)-39	ひのと用水	88.0	0.07427	5/3~6/3	0.04066	4/10~9/20	35.0
	(安)-49	土管	0.5	0.0004158	5/1~6/1	0.000231	4/1~9/20	28.0
	(安)-51	取水口	0.2	0.00016622	5/1~6/1	0.0000924	4/1~9/20	30.0
合計			120.5	0.10169202		0.0556734		

水利権一覧(3/4)

【鴨川(上流区間)】

河川名	位置図 No.	施設名	灌漑面積 (ha)	代掻期		普通期		日減水深 (mm/day)	
				取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間		
鴨 川	(高)-1	苔木用水	60.0	0.05064	5/1~6/3	0.02772	4/15~9/25	26.0	
	(高)-2	上ヶ平用水	10.0	0.00084	5/1~6/3	0.00046	4/15~9/25	30.0	
	(高)-3	中島用水	3.0	0.00253	5/1~6/1	0.00139	4/15~9/25	30.0	
	(高)-4	中島用水	4.0	0.00338	5/1~6/1	0.00185	4/15~9/25	27.0	
	(高)-5	中島用水	5.0	0.00422	5/1~6/1	0.00231	4/15~9/25	28.0	
	(高)-6	岸ノ下2番井堰	1.0	0.00084	5/1~6/1	0.00046	4/15~9/25	34.0	
	(高)-7	岸ノ下井堰	1.5	0.00127	5/1~6/1	0.00069	4/15~9/25	30.0	
	(高)-8	菅田井堰	15.0	0.01266	5/1~6/1	0.00693	4/15~9/25	28.0	
	(高)-9	武佐測井堰	0.9	0.00076	5/1~6/1	0.00042	4/15~9/25	33.0	
	(高)-10	中溝井堰	2.0	0.00169	5/1~6/1	0.00092	4/15~9/25	30.0	
	(高)-11	さつま用水							
	(高)-12	岩倉井堰	0.5	0.00042	5/1~6/1	0.00023	4/15~9/25	30.0	
	(高)-13	大窪用水	10.0	0.00844	5/1~6/1	0.00462	4/15~9/25	27.0	
	(高)-14	上井堰	30.0	0.02532	5/1~6/1	0.01386	4/15~9/25	30.0	
	(高)-15	砂馳用水	3.0	0.00253	5/1~6/1	0.00139	4/15~9/25	30.0	
	(高)-16	講堂大笹堰	4.0	0.00338	5/1~6/1	0.00185	4/15~9/25	30.0	
	(高)-17	中井堰	5.0	0.00422	5/1~6/1	0.00231	4/15~9/25	33.0	
	(高)-18	大井堰	120.0	0.10128	5/1~6/1	0.05544	4/15~9/25	30.0	
	(高)-19	飛惣橋井							
	(高)-20	山の神井	100.0	0.0844	5/1~6/1	0.0462	4/15~9/25	20.0	
	(高)-21	迎出井	20.0	0.01688	5/1~6/1	0.00924	4/15~9/25	25.0	
	(高)-22	共同井堰	54.0	0.04558	5/1~6/3	0.02495	4/15~9/25	30.0	
	(高)-23	小武沿曾井	10.0	0.00844	5/1~6/1	0.00462	4/15~9/25	23.0	
	(高)-24	副流水	0.8	0.00068	5/1~6/1	0.00037	4/15~9/20	28.0	
	(高)-25	副流水	0.12	0.0001	5/1~6/1	0.00006	4/15~9/25	30.0	
	(高)-26	副流水							
	(高)-27	溜池(14の測)	20.0	0.01688	5/1~6/1	0.00924	4/15~9/25	30.0	
	(高)-28	宿鴨灌漑揚水場	36.0	0.03038	5/1~6/3	0.01663	4/15~9/25	35.0	
	(高)-29	宿鴨新溜池利用施設	6.0	0.00506	5/1~6/3	0.00277	4/15~9/25	30.0	
	(高)-33	副流水							
	須 川	(高)-48	焼谷用水	0.5	0.00042	5/1~6/1	0.00023	4/10~9/20	22.0
		(高)-49	大岩用水	0.1	0.00008	5/1~6/1	0.00005	4/10~9/20	28.0
		(高)-50	コロ谷用水	0.17	0.00014	5/1~6/1	0.00008	4/10~9/20	25.0
(高)-51		堂谷用水	1.5	0.00127	5/1~6/3	0.00069	4/10~9/20	25.0	
(高)-52		久保田用水	0.05	0.00004	5/1~6/1	0.00002	4/12~9/25	20.0	
(高)-53		不登尾用水	0.06	0.00005	5/1~6/1	0.00003	4/10~9/20	25.0	
(高)-54		石谷用水	1.4	0.00114	5/1~6/1	0.00062	4/10~9/20	25.0	
(高)-55		出合用水	0.07	0.00006	5/1~6/1	0.00003	4/10~9/20	20.0	
畑 川	(高)-56	中島用水	5.0	0.00422	5/1~6/1	0.00231	4/10~9/20	28.0	
	(高)-57	三本木用水	3.5	0.00295	5/1~6/1	0.00162	4/10~9/20	25.0	
合 計			534.1	0.44319		0.24261			



水利権一覧(4/4)

【青井川】

河川名	位置図 No.	施設名	灌漑面積 (ha)	代掻期		普通期		日減水深 (mm/day)	
				取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間	取水量(m <sup>3</sup> /s)	期間		
青井川	(安)-8	浄願寺用水	4.0	0.00338	5/1~6/1	0.00185	4/10~9/20	20.0	
	(安)-9	青井川伏流水	0.13	0.00011	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	24.0	
	(安)-10	パチカルポンプ揚水	0.09	0.00008	5/1~6/1	0.00004	4/10~9/20	23.0	
	(安)-11	永田用水	0.14	0.00012	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	23.0	
	(安)-12	青井川井堰	21.0	0.01772	5/1~6/1	0.0097	4/10~9/20	21.0	
	(安)-13		0.13	0.00011	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	24.0	
	(安)-14		0.16	0.00014	5/1~6/1	0.00007	4/10~9/20	20.0	
	(安)-15	永田用水	0.25	0.00021	5/1~6/1	0.00012	4/10~9/20	22.0	
	(安)-16	十三用水	0.12	0.00010	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	20.0	
	(安)-17	十六の掘	0.12	0.00010	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	20.0	
	(安)-18	十六の掘	0.18	0.00015	5/1~6/1	0.00008	4/10~9/20	24.0	
	(安)-19	六反田井	2.0	0.00169	5/1~6/1	0.00092	4/10~9/20	23.0	
	(安)-20	大井	1.10	0.00091476	5/1~6/1	0.0005082	4/1~9/20	31.0	
	(安)-21	青井川堰	0.11	0.00009	5/1~6/1	0.00005	4/10~9/20	20.0	
	(安)-23	下小川用水	50.0	0.0422	5/1~6/1	0.0231	4/1~9/20	23.0	
	(安)-28		0.14	0.00012	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	25.0	
	(安)-31		0.13	0.00011	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	22.0	
	(安)-32	土管	0.11	0.00009	5/1~6/1	0.00005	4/5~9/20	21.0	
	(安)-35	青井川逆湯	15.0	0.01266	5/1~6/1	0.00692	4/1~9/20	23.0	
	(安)-36		0.5	0.00042	5/1~6/1	0.00023	4/1~9/20	25.0	
	(安)-40		0.18	0.00015	5/1~6/1	0.00008	4/10~9/25	22.0	
	(安)-43	下御殿井	0.64	0.00054	5/1~6/5	0.0003	4/10~9/20	27.0	
	(安)-44	下り縄手下井	0.56	0.00047	5/1~6/2	0.00026	4/1~9/20	26.0	
	(安)-45	中御殿井	0.96	0.0008	5/1~6/2	0.00044	4/10~9/25	23.0	
	(安)-46	下り縄手上井	0.58	0.00049	5/1~6/4	0.00027	4/10~9/20	24.0	
	(安)-47	善兵衛井	7.36	0.00621	5/1~6/1	0.0034	4/1~9/20	25.0	
	(安)-48	下り縄手上井	0.92	0.00078	5/1~6/1	0.00043	4/10~9/20	25.0	
	(安)-50		0.18	0.00015	5/1~6/2	0.00008	4/10~9/20	20.0	
	逆井川	(安)-22		0.11	0.00009	5/1~6/1	0.00005	4/10~9/20	24.0
		(安)-24		0.19	0.00016	5/1~6/1	0.00009	4/10~9/20	23.0
(安)-25			0.05	0.00004	5/1~6/1	0.00002	4/10~9/20	24.0	
(安)-26			0.16	0.00014	5/1~6/1	0.00007	4/10~9/20	24.0	
(安)-27			0.17	0.00014	5/1~6/1	0.00008	4/10~9/20	20.0	
(安)-41		簡井堰	0.3	0.00024948	5/1~6/1	0.0001386	4/1~9/20	29.0	
御殿川	(安)-29	三反田用水	0.11	0.00009	5/1~6/1	0.00005	4/10~9/25	25.0	
	(安)-30	明渠	0.12	0.00010	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	23.0	
	(安)-33	土管	0.11	0.00009	5/1~6/1	0.00005	4/5~9/20	21.0	
	(安)-34	土管(径15cm長3m)	0.064	0.00005	5/1~6/1	0.00003	4/1~9/20	20.0	
	(安)-37	四反田井用水	0.36	0.00030	5/1~6/1	0.00017	4/10~9/20	20.0	
	(安)-38		0.15	0.00013	5/1~6/1	0.00007	4/10~9/20	24.0	
	(安)-39	とびの木土管	0.14	0.00012	5/1~6/1	0.00006	4/10~9/20	23.0	
	(安)-42	八反田国道裏用水路	1.0	0.00084	5/1~6/1	0.00046	4/10~9/25	20.0	
合計			109.8	0.09264424		0.0507168			

1.2.3 河川環境に関する現状と課題

(1) 生物の生息・生育・繁殖

（植生）

圏域内の河川周辺では、河畔林を構成する木本類としてマダケ、エノキ、ケヤキ、コナラ、ヒノキ等が見られるほか、琵琶湖の水位が影響する河口部ではマコモ、ヨシ、ヒメガマ等の抽水植物やヤナギモ、オオカナダモ等の沈水植物が見られます。沖積平野部は、市街地や水田等に利用されており、古来より人為的な影響が大きいために自然植生はほとんど残っていません。

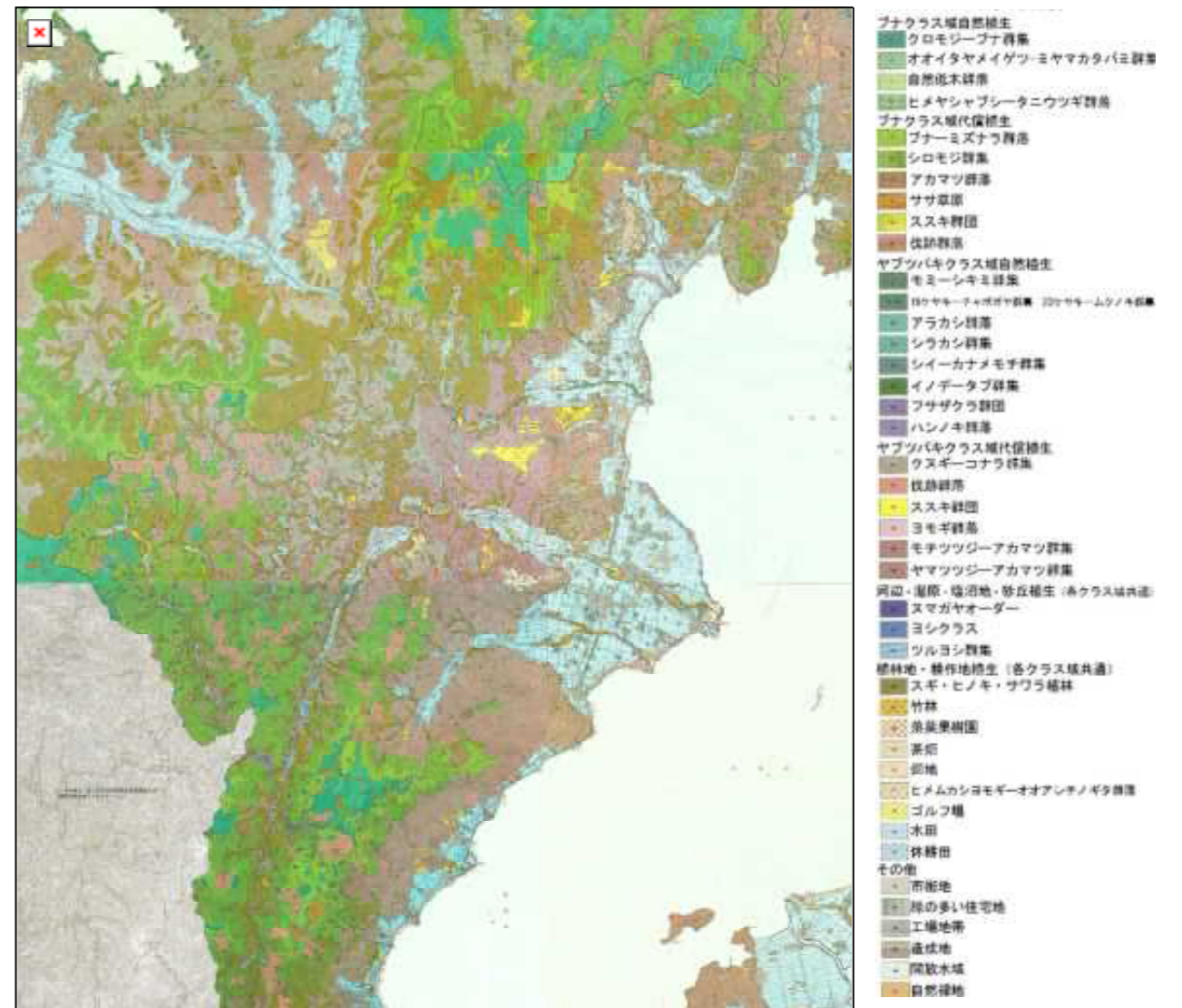
安曇川では、ケヤキや竹林の河畔林が連続的に見られ、河床にはツルヨシ等の草本類が繁茂しています。特に上流域の朽木溪谷は、河畔林、露岩、清流が一体となった美しい景観とともに、多種多様な生物が生育・繁殖しており、豊かな自然環境を有しています。

鴨川流域では、河畔林の大部分を竹林が占めていますが、タブノキ群落、ケヤキ・エノキ群落、コナラ・イヌシデ群落等の広葉樹林やスギ・ヒノキ植林も見られます。これらの河畔林は動物の生息・繁殖環境や採餌環境<sup>さいじりかんきょう</sup>だけではなく、ほ乳類、鳥類の移動経路としての役割を果たしていると考えられます。

石田川流域の植生は、上流域にはブナ林の自然植生が広がり、中流域はスギ・ヒノキ・アカマツ等の樹林に覆われています。下流区間では農地として利用されるなか、河川の両岸にケヤキ等の河畔林が続いています。

百瀬川の下流改修済区間では、河道内にヨモギやススキ、ツルヨシといった植生が復元し、また、中、上流域の河道内には雑草群落が繁茂しています。沈砂池の河岸には一部エドヒガン（早咲きのサクラ）があります。

植生の現状



出典：第2回自然環境基礎調査(植生調査)環境庁

安曇川沿いの竹林(広瀬橋付近)



河川整備計画（本文）

（魚類）

圏域内の河川には、アユ、オイカワ、カワムツ、メダカ、ドンコ、ナマズ等の、回遊性、非回遊性および放流魚が多数生息・繁殖しています。

安曇川では、タカハヤ、カワヨシノボリ、ウグイ等の魚類が確認されているほか、貴重な魚類としてウツセミカジカ、スナヤツメ、アマゴ、ビワマスが確認されています。また、特に上流部では、地域固有のイワナが確認されています。

鴨川流域では、タカハヤ、ヌマムツ、カワムツ、ドジョウ、ドンコ等のほか、貴重な魚類としてウツセミカジカ、スナヤツメ、アマゴ、ビワマスが確認されています。また、特に上流部では、地域固有のイワナが確認されています。

石田川では、カワムツ等が生息・繁殖しているほか、貴重な魚類としてウツセミカジカ、スナヤツメ、ビワマスが確認されています。また、特に上流部では、地域固有のイワナが確認されています。

百瀬川では、コイ、ドジョウ、ウナギ等の魚類が確認されています。また、特に上流部では、地域固有のイワナが確認されています。

■ 記載種一覧（魚類）

名称	滋賀県レッドリスト	環境省レッドリスト
アマゴ	要注目種	準絶滅危惧
アユ	分布上重要種	—
イワナ	絶滅危機増大種	—
ウグイ	—	—
ウツセミカジカ	分布上重要種	絶滅危惧ⅠB類
ウナギ	要注目種	絶滅危惧ⅠB類
オイカワ	—	—
カワムツ	—	—
カワヨシノボリ	要注目種	—
コイ	—	—
スナヤツメ	絶滅危機増大種	絶滅危惧Ⅱ類
タカハヤ	要注目種	—
ドジョウ	要注目種	情報不足
ドンコ	その他重要種	—
ナマズ	要注目種	—
ヌマムツ	分布上重要種	—
ビワマス	要注目種	準絶滅危惧
メダカ	絶滅危機増大種	絶滅危惧Ⅱ類

注1)参考とした資料は以下の通り  
 ・滋賀県レッドリスト：2010年版  
 ・環境省レッドリスト：第4次  
 注2)「—」はレッドリスト該当なし

出典・根拠

多様な魚類



アユ



オイカワ



カワムツ



カワヨシノボリ



ウグイ

貴重種



ビワマス

準絶滅危惧

環境省版レッドリスト  
掲載種



ウツセミカジカ

絶滅危惧ⅠB類



アマゴ

準絶滅危惧